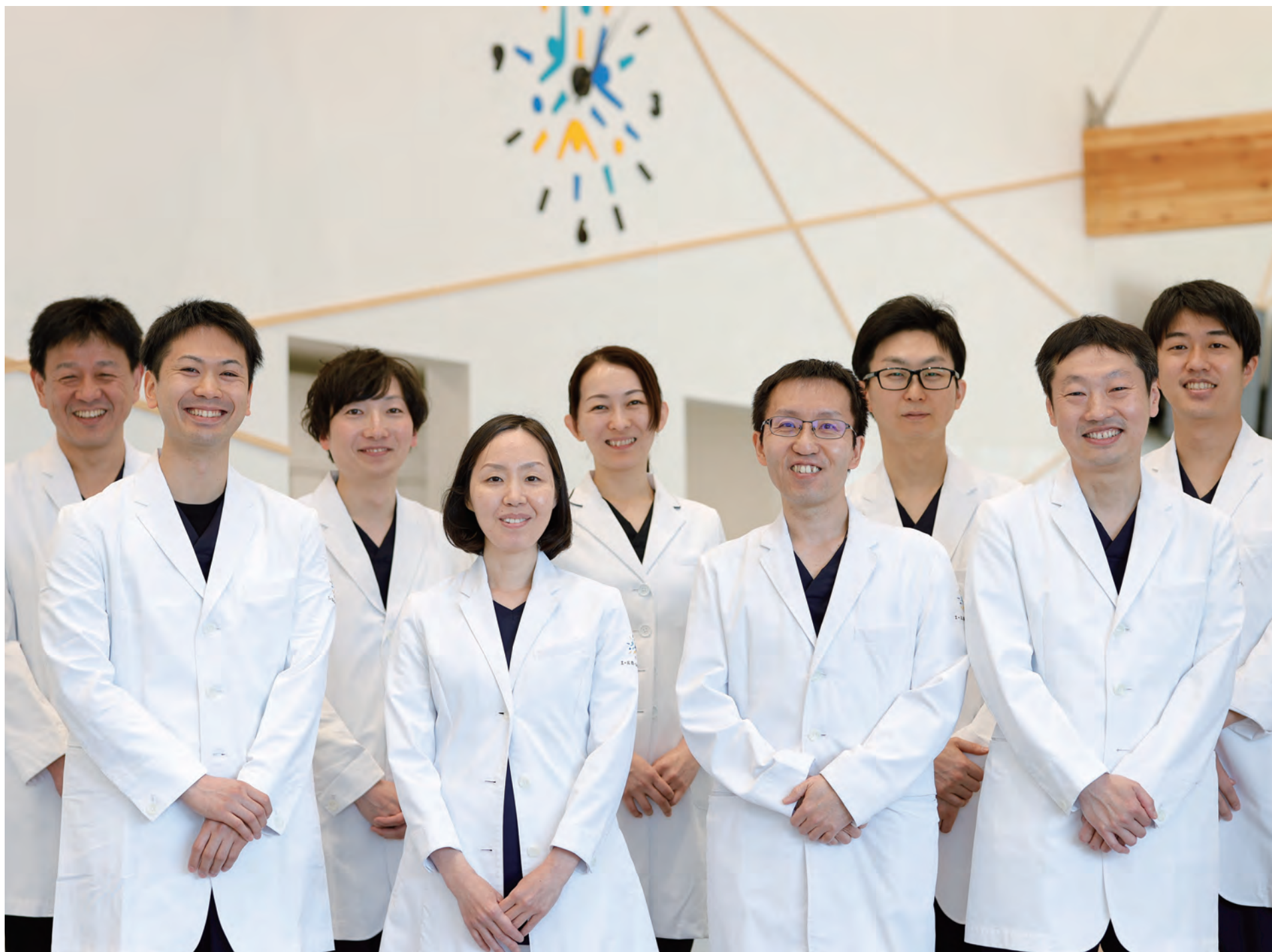




エールホームクリニック
AILE HOME CLINIC

A I L E

Vol.05 2023.5



新たな人、情報、挑戦に出会える、未来を創る場

2023.7.22 オープン



米百俵プレイス
ミライエ長岡
MIRAIE NAGAOKA





澁谷 裕之 (しぶや ひろゆき)

内科医師 / 医療法人メディカルビットバレー 理事長

新潟県長岡市生まれ。弘前大学医学部卒業。米沢市立病院、秋田厚生医療センターなどを経て長岡赤十字病院で総合診療医として研鑽を積み、総合診療科副部長を歴任。2020年4月に医療法人メディカルビットバレーを設立。家庭医療専門医、プライマリケア認定医。
好きな言葉は「即断即決即実行」、「適材適所」

MESSAGE

ノウハウの問い合わせがあり、僕が出向くこともあります。MBVがなぜここまで成長できたのか。それは医療と経営を分離し、それぞれが役割と責任を果たしながら、一体感を持って進んできたからです。創業当初から経営専門メンバーがいますし、現在は地元銀行からの出向者と共に経営能力を高めています。優れた医師やスタッフが全国から入職を希望してくれますので、少数精鋭を貫きながら、医療サービスの質も確保できています。

医師としての優秀さと、組織経営者としての能力は全く別。それなのに日本では医療組織のトップのほとんどが医師です。その地域に特別な事情がない限り、日本の保険制度で赤字を連発し、次々とスタッフが去るような医療組織は、トップに経営の才覚がないということ。コロナ禍でより顕著になりましたが、「社会性の強い医療は特別。医療機関は赤字でいい。お医者さまは別格」という時代ではなくなっています。



組織の全体像を把握し、将来を見通して経営するには、様々な問題解決をしてきた一線のビジネスマン感覚が必須なのに、たいていの医師はビジネスの勉強をしていませんし、経験もない。医師だけでは経営がうまくいかないという事実を素直に受け入れ、心を開いて、ビジネスのプロフェッショナルとコンビを組めばいいだけの話です。「医療組織では医師が一番偉い」というプライドが、結果として自分たちも組織も損をさせている。もったいないことです。

「外部の経営コンサルに依頼すればいい」と考えるかもしれませんが、他人事として業績を見るだけのコンサルなど意味がありません。メンバーになって一緒に汗を流し、苦楽を共にする覚悟のある人間でなければ無理。MBVはマネジメント人材リクルートしていますが、あえて医療系未経験者を募集しています。医療界の前例や固定観念、悪しき慣習に囚われず、MBVの今現在を見極め、これからの世の中の動きを予測して経営に携わってほしいからです。必要な医療の知識など入職してもらえば優秀な人は自分で学びますから、全く問題はありません。

医療組織だからこそ、健全な組織経営で、保険診療だけでも黒字を目指すべきです。世の中は刻々と変わっています。医師免許を取得したらその後50年心配なく暮らしていける時代じゃない。赤字で病院やクリニックの閉院もあり得るし、承継問題など課題は山積みです。時代の変化のスピードに遅れずに、より質の高い医療の提供を目指すなら、医師やスタッフが経済的に安定し、気持ちよく働ける組織作りが肝心です。

MBVの実績を見ていただければ、病床のない地方のクリニックがコロナ禍という非常時であっても社会ニーズに応えられることは明らか。今後は病院の外来がスリム化され、医療の最前線にいるクリニックはますます重要になり、価値を増します。地域医療にも大きく貢献できるMBVの概念、ノウハウを導入すれば、新規開業だけでなく既存の医療機関もどんどん良い方向に変わる。諦めずに一歩踏み出すことが大事です。



良いクリニックが街にあれば、その街は元気になります。地域の価値が上がったり、いろいろな分野と結びついて新しいプロジェクトが始まったり。医師やクリニックは、病気やけがを治す以外にも多くのことができる。その可能性をぜひ知っていただきたいのです。新潟は医師不足が深刻です。だからこそ、新潟を起点に効率的に医療の質を上げていく。そうした新しい医療システムを新潟から広げたいのです。そして「新潟はあたらしい!」と言われる未来に貢献したいと思っています。

求める人材は“有能で、いいやつ”

ぜひ多くの応募をお待ちしています。選考基準は「有能であるか」そして「人間的に“いいやつ”か」です。「いいやつ」ってフワッとしてますが、何となく分かりますよね(笑)。MBVは年齢、キャリア、職種の垣根がなく、フェアでフラットな職場です。医師も、看護師も、検査技師も、事務や運営のスタッフも、みな優秀で素晴らしい人材。最高の笑顔で働き、それぞれ個性を持つスタッフが同じ気持ちでつながっているチームです。

医療システムを変え、医療の質を上げていく。このビジョンに共感してくれる方や「最高の笑顔で働きたい!」という方との出会いを、心から楽しみにしています。

第1回「医療と経営の分離」

心を開けば楽になる

MBVは、ほぼ保険診療だけで黒字経営を維持し、今も成長しています。全国から集まった医師やスタッフ同士のチームワークも良く、それぞれがプライベートの充実とやりがいのある仕事のバランスを取って生き生きと働いており、通院患者さんは1日400人以上になりました。

一方で「エールワクチンセンター」も開設し、現時点では医師2人、受付4人、看護師3人で1日約1000人に接種。世の中のニーズにここまで応えられていることが注目され、全国の医療機関や自治体から



僕がメディカルビットバレーを創った理由



僕がここ新潟県長岡市に医療法人メディカルビットバレー(以下MBV)を創った目的は、ひとこと言うならば従来の医療システムを変革すること。そして医師不足といわれる地方により良い医療を届けることです。医療の組織において重要なのは時代に合ったマネジメントとリーダーシップ。しかし医師の世界はとても閉鎖的で、大きな病院ほどそれが機能していない現実を目の当たりにしました。今必要なマネジメントとリーダーシップを機能させ、まったく新しい医療組織やシステムを創りたい。そして「医療」と「経営」を役割分担し、互いに尊重し合って最高のパフォーマンスを発揮できる場を創りたい。その考えに共感してくれた、多くの仲間と共にMBVスタート。2020年にエールホームクリニックを開業しました。



しかし開業とほぼ同時に新型コロナウイルスが拡大。僕たちはそのとき、最も必要とされたワクチン接種を集中的に行い、街のクリニックとしては超異例の15万回以上の接種を行いました。ワクチンをきっかけに当院を知ってくださった患者さんも急増し、開業後数ヶ月は1日平均1桁だった患者さんが、今では1日400人以上ご来院いただいています。またWEBサイトの閲覧数は、多い時で1週間に約10万ページビュー。半数以上が県外からのアクセスなので、診療情報だけではなく「考え方」の部分にも注目いただいているのかなと思います。

新潟からはじめるメディカルレボリューション

MBVが広く認知された今、僕たちがやろうとしているのは「全国医師リクルート」です。といっても目的は全国から長岡に多くの医師を集めることではありません。むしろその逆で、MBVと一緒に進化・成長させながら、その経験やノウハウをそれぞれの地域に持ち帰り、医療のより良い「あかり」を全国に灯してもらいたいです。とは言っても新潟でずっと、やっぱりうれしいなあ(笑)

こういった取り組みをしていると、ドンドン事業を進めるタイプだと思われるのですが、僕は自他ともに認める大のカイゼン好き。違和感を感じたら即行動。すべてはその積み重ねです。



理事長・医師
澁谷 裕之氏

新しい医療システムで持続的な地域貢献を

—今年の秋に「長岡米百俵プレイス」で「エールホームクリニック長岡」を開院されます。

2020年に開院した「エールホームクリニック」で培ったノウハウを活用していきます。コロナウイルス禍でも1日平均400人以上という多くの患者さまが通院して下さるまでになった経験は私たちの財産。同じ志を持つ二つのクリニックでチームを組み、医療による持続的な地域貢献を続けていきます。

—「新しい医療システム」について教えてください。

医療と経営を分離し、医療側と経営側が信頼して融合することで便利で質の高い医療を提供。地方都市にあって、創業2年でほぼ保険診療だけで黒字化している点が注目されています。

元々病院と一般診療所は提供できる医療の質に差があり過ぎました。病院と診療所との間に、より高度な医療を提供する新しいシステムを構築したのが「エールホームクリニック」です。

院内のスタッフ同士だけでなく、他の診療所や病院、金融機関や業者の皆さんとも壁のない関係を築いています。患者さまにとって便利なだけでなく、地域医療のポトムアップになり、病院の高度化、専門化にも役立ちます。地域医療の疲弊が指摘されている地方都市に大型複合クリニックをつくることは、今後極めて有用になるでしょう。私たちの知的財産であるノウハウに、大型複合クリニック開設に必要な他の機能を組み合わせた医療システムを全国各地に広げていくために、医療から始まったベンチャーとして既存の医療法人の枠組みを超える必要があります。多くの医師や医療スタッフが切磋琢磨しながら楽しく仕事することで、新しい価値を生み出す究極の医療DXを目指します。

—新潟は医師不足が深刻です。

当法人は全国から医師を募集しています。病院で高度医療に携わってきた医師も、引き続き同レベルの環境ですからやりがいも大きい。そして、上も空いている。子育てのため病院勤務が難しく、第一線から離れていた女性医師も、希望する時間で働けます。モチベーションを上げながら楽しく仕事ができる環境があれば、アンテナが立っている有能な人は集まってくるよ。

—新潟の元気に必要なことは。

斜に構えずみんなと仲良くすることじゃないでしょうか。本音を話せる環境が人と社会を元気にする。進化し続けたい人たちは常に周囲にアンテナを立てておりオープンです。既存の価値観にとらわれず、何事にも心を開くことが肝心だと思いますよ。

新潟日報リーダーズ倶楽部
2023年4月25日掲載



メディカルレボリューション

MEDICAL REVOLUTION

修や見学に来てくれる若い医師たちがいますが、数年常勤してMBVの医療と経営の全体像を学んでほしいですね。

第3回「未来への提言」

地方医療こそチャンス

日本の医療は専門化が進み細分化されました。それは医療の進化であり、素晴らしいこと。スペシャリストたちの能力を最大限引き出すには、社会の中で医療がどのような立ち位置にあるのか、全体の状況を見て判断できる大局観を持ったリーダーが必要です。しかし、日本の医療界は俯瞰的に物事を見られる教育をしていません。むしろ、大局観のある人や、若い人の新しい考えを拒絶する閉鎖性がある。とても残念なことだと感じています。

医療は誰もが必要とするインフラの要素が強いことは事実ですが、特別な存在ではなく、社会システムの一つであると認めることで、もっと自由な動きができる。これからの医療には、稼働しながら成長する、人もサービスも循環しながら底上げするビジネスの感覚が不可欠です。その場限りではなく未来まで見据える大局観を持った医師を育てるのがMBV最大の使命だと思っていますし、今後10年間は力を注いでいきます。

新型コロナ禍は病院や既存のクリニックとは違う役割を担う、新しい形の医療機関の必要性を顕著にしました。同じ志を持ったMBVのメンバーがチームワークすることでシナジー効果が高まり、巨大なパワーを生んだ結果は、ワクチン接種実績や業績アップの数字が証明しています。時代に即した新しい人的医療システムを創れる有能なビジネスパーソンと医師の協働で、地方のクリニックでも医療の質を高めながら、安定した経営ができることが明確になったのです。新型コロナ収束後もこの新しい価値観は広がり続けるでしょう。

地方医療は疲弊していると言われていますが、まだまだエネルギーが眠っています。創業以来、MBVの概念や方針について、さまざまな所から出る杭を打たれまくったことで逆に実感しました。今まで変化を嫌ってきた分、これからもっと良い方向に劇的に転換する力が蓄積している。大チャンスが地方医療にはあるんです。今後は医療界も切磋琢磨が当たり前になり、それが地域全体の活性化につながる。未来の医療に時代遅れの慣習としがらみは要りません。

僕は自分が働きたい場所としてMBVを創りました。医療と経営を分離し、メンバー全員が一体感を持って働きやすい環境での経営黒字化。法人の役員に創業者である自分の血縁を入れず、年功序列や男女格差のない、頑張ればいくらでも上を目指せる実力主義の組織構築。志を同じくする少数精鋭のメンバー同士がフラットな立場で支え合い、自己成長できる人事体制。一時的な金儲けではなく長くしっかり続けられるよう、中心に据えるのは保険診療。このような価値観は若く柔軟な頭でないと理解できません。僕自身は、いつまでも創業者パワーに頼って後継者が育たない環境を避けるよう、理事長としての活動期限を決め、常に後継育成を心がけています。

5年後、10年後の具体的な姿は分かりませんが、MBVが起こした新たな概念が波及することは確信しています。一生懸命に仕事をする人が報われ、若い世代が地域も国も良くなることができると、誰もが関心のある医療から発信していく。MBVの進化は続きます。



第2回「リーダーシップとマネジメント」

人間力はあるか？

医療組織のリーダーには、細部に配慮しつつも全体を把握する力と、将来まで見通せる広い視野が必要です。危機察知能力とデリケートな気質を持ちながらも、スタッフに安心して業務に集中してもらうため、自らの繊細さを前面に出さない技術も大切。医療は感情のある人間相手の仕事ですから、ストレスが非常に高い。本来の仕事以外でスタッフに余計な負荷をかけないよう、リーダーは注意しなくてはなりません。感情コントロールも当然。命にかかわる現場で、すぐ冷静さを失う人はリーダーにも医療にも向いていないですね。

リーダーシップは本来、医療組織の全員が持つべきもの。自分の仕事に責任を持つ「個」のレベルから、部署などグループのリーダー、やがては組織のトップレベルまでと段階はいろいろですが、真のリーダーに必要なのは人間力。見定めたゴールに向かって問題解決をすべく考え抜いて実行し、事実を事実として認め、結果の責任を取る。要は「人のせいにしない」ってことです。そして部下の何倍も働ける心身の資質。組織内の誰よりも働くことができないならトップの資格はありません。

医師はもともと優秀な人たちですから、リーダーシップを潜在能力として持っている。ただ既存の医療組織内で発揮できることはほとんどないし、仕事はトップと上司で決まるので、そこに恵まれなければ力を発揮することなどできません。僕は基本的に、信頼しているスタッフのリーダーシップに任せるタイプ。スタッフが忙しくとも楽しく仕事をしていれば自然に医療の質が上がり経営は黒字になる。地方であっても自然と人が集まるんですよ。今までのMBVを見ていただければ分かることです。

マネジメントの根幹は一生懸命働く人の雇用を守ること、そしてハッピーにすること。医師や医療スタッフが幸せでなくて、どうやって患者さんを幸せにできるんですか？ 私と共に安定しているからこそ心身に余裕や余白が生まれ、好奇心を持って新しいことにチャレンジしようという気持ちになれる。挑戦の結果で得た気付きや学びが仕事に生きて、ますます幸せになり余裕と余白が新たに生まれ、次の興味が湧く。プラスのスパイラルで少しずつ人も組織も成長できるんです。

社風に合ったメンバーをリクルートすることも肝心です。うちは全員がオープンマインドで明るく、スピード感を持って物事に対処できる。機動力が高く変化に強いメンバーばかりです。そういう人に入職してもらっていますし、社風に合わない人は自然淘汰されていく。創業当初から、問題は小さなうちに見つけ出し、現場ですぐ対応するよう教えてきたので、今では「カイゼン文化」が根付いています。また、組織が大きくなってもむやみに人を増やさない。少数精鋭を徹底しています。

リーダーシップとマネジメントの力は、若いうちから身に付けた方がいい。MBVの概念を若いうちに理解できた医師は大成功しますよ。旧来の伝統通りの決められたルールに乗って10年、20年と過ごすうちに柔軟さや行動力、向上心もなくなってしまうので、MBVの存在に先見性のある若い医師が気付くことを願っています。現在も研

メディカルヒットバレーの医師たちに、自身の想いや伝えたい医療のハナシを聞きました！

INTERVIEW

楽しく働いて人の役に立てる！

内科医師 **倉科 健司** くらしな けんじ

【経歴】

長野県松本市生まれ
新潟大学医学部卒業
新潟県厚生連佐渡総合病院、新潟県立中央病院、長岡赤十字病院、新潟大学歯学総合病院、立川総合病院にて研鑽を積む。

【専門医・資格】

内科専門医

【好きな言葉】

「何でも見てやろう」



病院と個人クリニックの間「第3の医療機関」

佐渡島の総合病院で働いていた時、離島という地域柄もあってか「そこまで重症ではないけれど個人クリニックでは対応が難しい」という患者さんが多くいらっしゃいました。そこで思ったのが「総合病院と個人クリニックの中間的な医療機関があればいいのに」ということです。エールホームクリニックの話は、まさに私が考えていた答えのひとつが提示された！という感じ。新しいクリニックをつくるというチャレンジにも大いに興味を惹かれ、MBVに入りました。

気づきを実行に移す圧倒的スピード感

一般的に、大きな病院でシステムを変えようとする、上司や医局などさまざまな許可が必要です。このクリニックは意見が通りやすく、改善に向かうスピード感がものすごい。それを実感したのが、新型コロナの患者さんが爆発的に増えた時です。診察室のレイアウトを一部変えて対応したのですが、スタッフみんなで相談してわずか1〜2日で間取りを変更。1日テスト運用し、翌日には完成形としてスタートしました。

「先生」である以前にひとりの「人間」でいたい

好きな言葉に挙げた「何でも見てやろう」は、有名な世界旅行記のタイトル。思い浮かべるとワクワクするポジティブな言葉です。私自身も旅行が好きで、もし医者にならなかつたらノマド生活もいいな、なんて思ったりします。医者は患者さんから「先生」と呼ばれますが、それ以前にひとりの人間です。その気持ちは忘れたくないですね。いろいろな可能性のある「人間」の方が、人生おもしろいぞ、と思っています。

早期診断・早期治療につなげたい

私が専門とするリウマチや膠原病は、専門医の少ない地方では特に診断がつきにくい病気で。最近では長岡市はもちろん、お隣の見附市から来てくださる患者さんもいて、エールホームクリニックの名前が着実に広まっているのを感じます。大きな病院に行く手前の段階で当クリニックに来ていただき、患者さんの早期診断・早期治療につなげられるよう奮闘しています。

複数医師体制だから日々勉強できる

仕事をする上で大切にしているのは「正しくやること」。そのためには知識の更新が欠かせません。内科は私を含めて現在4名の医師がいます。診察のとき、隣の部屋にいる先生が患者さんに説明するのを壁越しに聞いて参考にしたり、疑問があったら「さっきこうやってましたよね」と診察のちょっとした合間に確認したり。日々自然に学べる環境は貴重だと思います。

ひとりではできないこともここでならできる

「それぞれが専門知識を持ち寄って現場をより良くしよう」という雰囲気は、私にとってすごく新鮮です。大きな病院では他の職種との交流が少なかったり、トップダウンでものごとが決まることもありました。ここはすべての職種がフラットにつながり、相談しながら新しいことを決めていきます。新型コロナワクチン業務では、患者さんをスムーズに回すため全員でアイデアを出し合い、試行錯誤の末に医師3人で1日1,000人の接種を実現しました。ひとりではできないことも、ここでなら力を合わせてできる。そう実感した瞬間でした。

力を合わせて新たな挑戦ができる。

内科医師／医学博士 **田村 真麻** たむら まあさ



【経歴】

神奈川県横浜市生まれ
横浜市立大学医学部 卒業
横浜市立大学大学院医学研究科博士課程 修了
横浜南共済病院、横浜市立大学附属病院で内科医、リウマチ医として研鑽を積む。元長岡赤十字病院総合診療科・リウマチ科 副部長。

【専門医・資格】

総合内科専門医
リウマチ専門医・指導医
アレルギー専門医
日本リウマチ学会 登録ソノグラファー

【好きな言葉】

「清く、正しく、美しく」

ここだからこそその経験ができます。

小児科医師 **鈴木 竜太郎** すずき りゅうたろう

【経歴】

茨城県日立市生まれ
弘前大学医学部 卒業
茨城県立こども病院で小児科医として研鑽を積む。筑波大学附属病院腎臓内科を経て、国立成育医療研究センター病院 腎臓・リウマチ・膠原病科勤務。

【専門医・資格】

小児科専門医
腎臓専門医

【好きな言葉】

「至誠一貫」



お子さんからもらった「ありがとう」の手紙

茨城や東京で小児科医をしていた頃は、重症の患者さんがほとんどでした。総合病院からこのクリニックに来て、患者さんも業務内容も大きく変化。比較的軽症の患者さんを多く診る仕事も、たくさんの学びがあります。お子さんから「ありがとう」の手紙をもらうこともあり、素直にうれしいですね。子どもはその場を敏感に感じ取る力があります。病気について説明する際は、親御さんだけでなく、お子さんの方にもしっかり顔を向けて話すことを意識しています。

「プロジェクト」の立ち上げにワクワク

私はMBVがスタートした時からのメンバー。クリニックをゼロから立ち上げる経験は、それまでにないワクワク感がありました。今後も新しい取り組みが次々に出てくるはず。それを新しく仲間になってくれる先生と一緒に楽しみたいと思います。新しい取り組みといえば、クリニックの近くにある長岡造形大学の学生さんの卒業制作をお手伝いさせていただきました。病気について楽しく分かりやすく解説するイラスト付きパンフレットで、研究室の優秀賞を受賞したそうです。こうした地域とのつながりも新鮮な体験でした。

長岡の暮らしを家族と楽しみたい

プライベートでは最近子どもが生まれました。新しく家族が増えて、仕事のモチベーションにもなっています。妻と子どもがもうすぐ里帰り出産から戻ってくるので待ち遠しいです。長岡は夏の花火や豊かな自然が魅力。家族との生活も楽しみたいと思います。

新しいクリニックに興味を惹かれて

大学病院から独立開業するか悩んでいた時、学生時代に縁のあった澁谷先生から「長岡で新しいクリニックをやるから来ない？」と誘っていただきました。真っ先に思ったのが「おもしろそう」ということ。独立開業に向けて勉強させていただく意味でもいい経験になると思い、青森から新潟に来ました。地域が違えば患者さんの雰囲気も違いますね。優しくいい患者さんばかりです。赤ちゃんから年配の方まで年齢層も幅広いので、ひとりひとり丁寧に接するように心がけています。

先生たちとの外来の仕事に刺激

皮膚科医は私を入れて4人。同じ治療でも、使う道具や処置のやり方が違っておもしろいですね。気になったらすぐに質問して「その方法もいいなあ」と思ったり。毎日の仕事の中で吸収できることがものすごく多いと感じます。長岡駅前に来年秋できるエール長岡クリニックが完成したら、できることがもっと増えると思うので今後が楽しみです。

将来を見据え今を一杯楽しむ

趣味は、仕事の後のお酒でしょうか。料理が好きなので家で何か作りながら飲むこともありますし、先生たちと食事に行ってそこで楽しむことも。いずれは青森に戻って独立を考えていますが、今は気の合う先生たちと一緒に仕事をしたり、帰りに食事したりできる空気がすごく好きです。ここで学んだことを持ち帰り、将来は地元で自分の理想のクリニックを立ち上げたいと思います。

毎日の仕事ごとにかく楽しいんです。

皮膚科医師／医学博士 **松井 彰伸** まつい あきのぶ



【経歴】

青森県平川市生まれ
弘前大学医学部 卒業
弘前大学大学院医学研究科 博士課程 修了
青森市民病院、弘前大学付属病院、青森県立中央病院を経て弘前大学皮膚科助教で皮膚科医として研鑽を積む。

【専門医・資格】

皮膚科専門医

【好きな言葉】

「継続は力なり」



メディカルレボリューション

MEDICAL REVOLUTION

新しい先生との出会いが楽しみです。

皮膚科医師 / 医学博士 **藤本 篤** ふじもと あつし

【経歴】
岡山県岡山市生まれ
新潟大学医学部 卒業
新潟大学大学院歯学総合研究科
博士課程 修了
新潟大学歯学総合病院で皮膚科医
として乾癬専門外来を担当し研鑽を
積む。元新潟大学歯学総合病院皮
膚科講師、特任講師。

【専門医・資格】
皮膚科専門医

【好きな言葉】
「我思う、ゆえに我あり」



人柄も仕事もトップレベルの仲間たち

大学病院で一緒に働いていた苅谷先生に誘われてこのクリニックに入りました。いざ働いてみると、先生もスタッフもみんな優秀。これまでいろんな人と一緒に仕事をしてきましたが、人柄も職務能力もトップレベルだと思います。もちろん大学病院には大学病院の良さがありますが、職種の垣根を感じないこのクリニックの雰囲気が自分には合っていますね。毎日楽しく働いています。

自己研鑽し医療の質の向上へ

好きな言葉は「我思う、ゆえに我あり」。考える自分がそこにいる、それだけは揺るぎのない真実という意味です。そこにも通じるかもしれませんが、医師は勉強や自己研鑽が欠かせません。MBVは学会などにかかる費用の補助が手厚いのも魅力。サポート額は大規模病院並みではないでしょうか。診療してお金を稼ぐだけでなく、スタッフの自己研鑽に投資してくれるのは、「医療の質を上げたい」という法人の本気度を感じます。

フランクで壁のない職場

今在籍している医師は、もともと同じ職場だったりして入った先生がほとんど。その壁をまさに「突破」して、新しい先生と働くのが本当に楽しみです。ここには幅広い世代の医師がいます。それでいて年齢やキャリアの差を感じないフランクな雰囲気。「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」よりも「ざっそう（雑談・相談）」という言葉が似合う、スピード感のある職場です。ぜひ一緒に働きましょう！

周りのスタッフがいるから医師は仕事ができる

このクリニックのいいところは、職種にこだわらない動きができること。一般的に、医師は医療システムの一番上にいるイメージですが、ひとりでは仕事できません。看護師さん、検査技師さん、事務や運営の方がいてこそ仕事ができる。私はそれを無視したくないんです。だから私は仕事の合間に、看護師さんのちょっとした作業を手伝ったりもします。お互いの業務を分かった上で、医療に関わるあらゆる仕事をみんなでやる。その雰囲気がとても好きなんです。

日々アップデートを続ける職場

このクリニックはスタッフの動きがスピーディー。ちょっとした物の置き場とか、事前準備とか、小さな工夫を重ねてどんどんアップデートしていきます。新型コロナワクチンの時もそうでした。患者さんの動きがスムーズになる動線を考えて、まずはやってみる。改善すべきことは改善して、より良いシステムを作り上げる。それが当たり前に行える職場です。

幅広いニーズに対応できるクリニックへ

皮膚科医としては、幅広いニーズに応えることを大切にしています。レーザーや美容系もやりますし、「これは内科につないだ方が良さそう」とか「あの病院に紹介した方がいいな」という適切な道筋を立てるスキルも重要です。さまざまな検査や処置ができる設備も充実しているので、今後も患者さんのニーズに応える質の高い医療を提供していきたいと思っています。

みんなで仕事する、その雰囲気が大好き。

皮膚科医師 **梅森 幸恵** うめもり ゆきえ



【経歴】
福井県福井市生まれ
富山医科薬科大学医学部卒業
富山医科薬科大学附属病院、福井県済生会病
院、新潟大学歯学総合病院、長岡赤十字病
院で研鑽を積む。元長岡赤十字病院皮膚科部
長。

【専門医・資格】
皮膚科専門医
レーザー専門医
がん治療認定医

【好きな言葉】
「なるようになる」

ひとりひとり、秘めた個性がある。

皮膚科医師 / 医学博士 **苅谷 直之** かりや なおゆき

【経歴】
神奈川県横浜市生まれ
新潟大学医学部 卒業
新潟大学大学院歯学総合研究科
博士課程 修了
新潟大学病院、長岡赤十字病院を
経て新潟大学皮膚科講師として研鑽を
積む。元苅谷皮膚科医院副院長。

【専門医・資格】
皮膚科専門医

【好きな言葉】
「笑う門には福来る」



人間性のいい優秀なメンバーたち

クリニック立ち上げのタイミングから携わり、今は現場でドクターのまとめ役も担っています。ここで働く人たちは、みんな優秀。人間性がすごいんです。根が明るくて、周囲のことを考えて行動してくれる。それぞれ秘めた個性は強いと思うのですが、周りの空気を感じながらベストな動きをしてくれていると感じます。これまで数々の職場を経験してきましたが、ここは特に団結力もあるいい職場ですね。

診療科を超えたコミュニケーションが当たり前

私は大学病院で長く勤めた後、横浜にある実家のクリニックを継ぐため数年だけ地元に戻りました。そこではちょっと孤独感もあって。大学病院の生活が長かったこともあり、たくさん人がいてにぎやかな方が性に合います。このクリニックは皮膚科の先生はもちろん内科や小児科の先生とも交流があります。大学病院では診療科を超えてのコミュニケーションはあまりなかったので、それだけでも新鮮ですね。

チームのまとめ役として盛り上げたい

単身赴任なので週末は横浜に戻ることも。家族の顔を見るのはうれしいですし、仕事のモチベーションになります。新潟での生活も20年以上。その中でMBVという新しい場に出会い、気の合う仲間にも恵まれました。あれこれ意見を交わしながら現場を改善していく、イキイキとした空気に満ちた職場です。今後も現場のまとめ役としてチームを盛り上げていきたいです。

MBVの仕事は新鮮さの連続

「長岡に新しい医療の場をみんなでつくる」。そんな苅谷先生の考えに共鳴してMBVに入りました。クリニックの建物さえまだない状態からのスタートで、診察室の配置から何から、その時のメンバーみんなで考えて、ワクワクする貴重な経験でした。今はスタッフが増えましたが、若い先生と働くのも楽しいですし、逆に教わる場面もたくさんあります。

職種の垣根をなくす朝の勉強会

毎週1回、朝5分間の勉強会はずごく大切な時間です。各職種の仕事を周知し情報を共有するため、医師、看護師、検査、事務、運営の各々が持ち回りで話します。時間にしてみればたった5分。でもその5分間が、普段からの連携の良さや、このクリニックらしいスタッフ同士の距離の近さ、ひいては患者さんのためになる質の高い医療につながっていると思います。

それぞれが役割を果たす最高のチーム

スタッフ同士の距離は近いですが、ただの仲良しではありません。ひとりひとりが自分の持ち場でしっかりと役割を果たす最高のチームです。私もいい意味で緊張感や責任感を感じながら仕事を楽しんでいます。今回の全国医師リクルートでは、職種の垣根や上下関係を気にせずのびのびやりたい人、このクリニックや地域の医療を良くするために臆せず前向きにやってくれる人に来てほしいです。世の中はどんどん変わります。新しい医療の場をつくる、その目的に共鳴してくれる人、ぜひ一緒にやりましょう！

新しい医療の場を一緒につくろう。

内科医師 **伊藤 朋之** いとう ともゆき



【経歴】
茨城県水戸市生まれ
富山医科薬科大学医学部 卒業
富山医科薬科大学病院、関連病院を経て
長岡赤十字病院で内科医として研鑽を積む。
元長岡赤十字病院リウマチ科部長、
総合診療科部長。

【専門医・資格】
総合内科専門医
リウマチ専門医 指導医

【好きな言葉】
「まっすぐ」

CROSS TALK

メディカルピットバレーの医師たちに、自身の想いを話していただきました。



TALK/02 若手医師トーク

皮膚科医師 **松井 彰伸** (35才) × 小児科医師 **鈴木 竜太郎** (34才) × 内科医師 **倉科 健司** (32才)



Q1 みなさん大学病院や総合病院から メディカルピットバレー (MBV) に入りました。 率直な感想は？

松井 そもそも病棟のない職場が初めてで、働き方がまったく違いますね。特に大きいのは、今まで感じていた「医者ならではの世界」みたいなものがなくて、フラットに仕事ができること。今こちらは30代半ばで、ほかの先生はみんな年上だけど、すごく自由にさせてもらってるよね。

鈴木 ほんと、科の垣根を超えても相談しやすいと思う。

倉科 「今忙しそうだからやめとこうかな」とか遠慮する感じもあまりないよね。組織は大きくなればなるほど硬くなるというカルチャーが厳しくなるのが一般的だと思うけど、MBVでは柔軟な働き方ができるよね。それと、街のクリニックとしては診療のカバー範囲が広いのも特徴的。地方の一次・二次病院か、それ以上の検査を出せるくらいのレベルだと思います。

鈴木 個人のクリニックは身近で行きやすいけど、検査体制や設備にはどうしても限りがあって。それで必要な検査ができなくて「軽い病気だと思うけど、万が一があるといけなから敷居を下げて大きい病院を紹介しようか…」ってなったり。でもこのクリニックは検査体制が充実しているから、医師としてはその辺のストレスがないよね。病院のような充実した検査体制と、クリニックのような身近さ。両方のいいところ取りで、患者さんにとってもメリットが大きいんじゃないかな。

倉科 内科と皮膚科は複数医体制だから、誰かのところで急変があっても外来が止まらない。これがエールの強みだね。

Q2 ところで、3人とも仲が良いですね。 普段からそういう感じですか？

鈴木 そうですね。3人とも歳が近いので。私と松井先生は同い年です。

したいか、そのバランスをどう考えるかは人それぞれですね。今は時短や育休などのサポート体制が当たり前ですが、半日勤務なら週5日とか、フルなら週3日とか縛りもあって。それがもっと柔軟になると働きやすいと思います。MBVはその辺りがすごくフレキシブルで、私の場合は話し合っただけで今の勤務時間を決めましたし、人それぞれ望む働き方ができると思います。

Q2 休日はどのように過ごしていますか？

田村 近場のイベントに出かけたり、旅行が好きなので土日休みが取れたら一泊旅行に行ったりしますね。長岡は自然が豊か。夏から秋にかけては虫の声で季節の変わり目を感じています。子どもを連れてあちこち出かけられるのは楽しいですね。

梅森 私は結構、休日も学会やセミナー、講演会に行っちゃってます(笑)。そこは夫とも話し合っ、理解してもらった上でそうしています。子どもという時間はあまり多くないですが、病院の頃と比べたら当直がないので身体的にはラクですし、子どもの精神衛生上も今の方がいいのかなと思っています。

田村 ここ最近、日曜にワクチン業務が入ることもありますね。

梅森 なかなか休みがなくて(笑)。ま、基本的に仕事好きなのでいいですけどね。

田村 新潟はコロナ第7波でも死亡数が全国と比べてかなり少数でした。私たちがやってきたワクチン接種や発熱対応が、少しでも役に立っているのかなと思うとがんばれますね。

Q3 今回の全国医師リクルートでは、 どんな人に来てほしいですか？

田村 女性の先生の中には、育児をしながら病院やクリニックなどで週数回の非常勤で働いている人も多いと思います。非常勤だと少なからず「その時だけ」という感覚になってしまいがちですが、フルタイムではなくても1か所に常勤するメリットは、キャリアの面でもやりがいの意味でも大きいはず。MBVは柔軟な働き方ができますし、「どこかに所属して働きたい」と考える人には合っていると思います。

梅森 私が来てほしいのは、シンプルに「働きたい人」。それと「これでいいや」と思わない人。このクリニックは小さいことでもみんなで相談して改善していくので、新しいことに臆さず、古いものにとらわれず、前向きな人がいいと思います。

田村 ほんと、日々小さな変化がありますよね。「もうちょっとこうしたらうまくいくんじゃない？」というのを見つけて、システムを作るのがとっても上手。

梅森 気づいたらすぐやってみる感じですね。あと女性スタッフが多い職場なので、普段からコミュニケーションを大事にしています。女性は話すことでフラストレーションを発散する面がありますから。患者さんの話を引き出して診療のヒントにする皮膚科医の仕事にも通じるかもしれませんが、「最近どう？」と周りのスタッフに話しかけたりして。そういう普段からの会話を楽しめる人にぜひ来てほしいと思います！



TALK/01 女性医師トーク

皮膚科医師 **梅森 幸恵** × 内科医師 **田村 真麻**



Q1 お二人ともお子さんがいらっしゃいますよね。 仕事と育児の両立はどうですか？

田村 私は4歳の子供がひとりいます。出産した時はまだ前の病院で働いていて、生後3か月くらいで職場復帰。時短勤務からスタートして、子どもが1歳になるタイミングで通常勤務に戻りました。このクリニックでは8:30~17:00の勤務で、仕事帰りに子どもを迎えに行ったりします。梅森先生はフルタイムですよね。

梅森 そうですね。平日は診察後、だいたい19時くらいには帰ります。私は6歳と3歳の子供がいますが、出産などのライフイベントを理由に仕事をセーブするのが嫌で。やりたいことができないのを子どものせいにしたくないし。だから育児休業は最小限にして、下の子の時は8週間で復帰しました。

田村 すごいですね。



梅森 皮膚科って見たり触ったりするのがすごく大事なので、毎日やらないと感覚が鈍る気がして…。私の場合は仕事ができない方がストレスでした。「あー、大人としゃべりたい！」って(笑)。女性医師って育児との両立とか時短勤務でよくピックアップされますけど、助けてほしいポイントは人によって違うと思うんです。

田村 分かります。どれだけ仕事をしたいか、どれだけ家族と過ご



メディカルレボリューション

MEDICAL REVOLUTION

環境だと思いますよ。

松井 確かに。それは感じます。患者さんやスタッフがみんないい人で、穏やかですね。

Q2 実際に働いてみて感じた、MBVの魅力は？

苅谷 地方でこれだけのドクターを抱えているクリニックはめずらしい。「数の力」は大きいと思います。手前味噌ですが、ここにいるのは優秀なドクターばかり。優秀な人材をこれだけの人数抱えていることが、MBVの魅力であり、ポテンシャルだと思います。

松井 そうですね。MBVは長岡駅前に新設される予定の「エール長岡クリニック」開業に向けて動いていますが、新しいクリニックができることへの期待も大きいです。

鈴木 私は小児科医ひとりで大変な部分もありますが、毎日の仕事を楽しています。それは他の科の先生との交流があることも大きいです。それに、看護師や他のスタッフも能力が高いと思います。

松井 ほんとそう！

苅谷 MBVは「少数精鋭」を合言葉にスタートしましたが、今やスタッフは50人近く。既に少数ではありませんが(笑)、「精鋭」がそろっている。このスタッフこそがMBVの可能性の象徴なんだと思います。

Q3 全国医師リクルートで求める人物像は？ また、みなさんの今後のビジョンを聞かせてください。

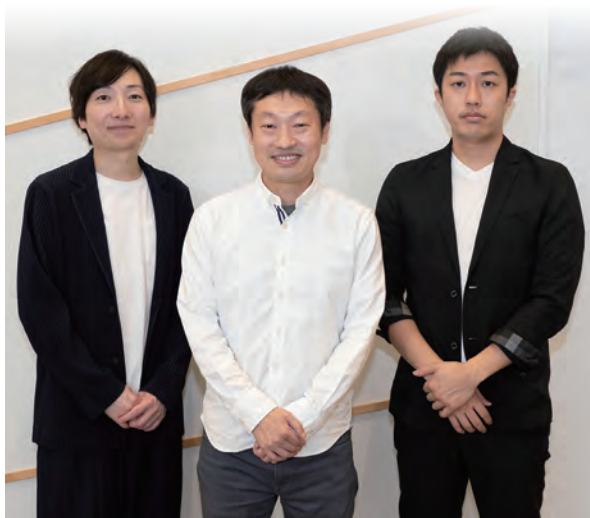
苅谷 人柄の良い人に来てほしいです。今ある輪の中に入って来てくれる方、一緒に働く仲間を大事にしてくれる方に、ぜひ来ていただきたいですね。

鈴木 同感です。小児科医は今私ひとりなので人材は喉から手が出るほど欲しいですが、最優先条件は「人柄が良い人」。小児科医ならなお良しです！



松井 私は、お酒が好きな人かな(笑)。強い弱いは別にして、お酒の場やみんなで楽しむ場が好きでスタッフが多いので、今後のビジョンで言うと、私はいずれ地元の青森で自分のクリニックを持ちたいと考えています。それに向けてMBVで吸収できることをどんどん吸収していきたいです。

鈴木 私は最初、苅谷先生に「新しいものを創る過程と一緒に勉強しよう」と誘われてここに来ました。現場では毎日のように新しいことや改善することがあって、より良いクリニックをスタッフ全員で創り上げている感覚です。それを経験して、10年後、20年後に自分がどう思うかは分かりませんが、最高の医療の場を創り上げるMBVでの仕事を、全力で楽しみたいと思います！



Q1 みなさん新潟県外からメディカルビットバレー(MBV)に来た理由を教えてください。また、新潟や長岡の印象はありますか？

苅谷 私は大学進学で横浜から新潟に来て、そのまま勤めたので新潟歴はもう20年以上。MBVに来る直前は、横浜にある実家の皮膚科医院にいました。その時、新潟時代の同僚だった苅谷先生から「新しいクリニックをやるからぜひ一緒に」と声をかけていただいて。なので県外から新潟に来たというより、久々に戻ってきた感じ。鈴木先生、松井先生とは違うパターンですね。

鈴木 私たちは苅谷先生とは大学時代のつながりがあって、その縁でこちらに来ました。

松井 私は青森の大学病院にいたのですが、独立開業するか悩んでいて、それでクリニックの働き方に興味があったのでMBVに入りました。長岡で暮らすのは初めてですが、夏の暑さはなかなかですね(笑)。青森とはだいぶ違います。



鈴木 私は茨城出身なので、暑さはそれほどでもないかな。今年の夏は3年ぶりの長岡花火が見られて良かったです！

苅谷 今回は全国医師リクルートですが、正直、天気要素は小さくないかも(笑)。こればかりはどうにもならないので…。でも、そこさえクリアできたら、人はいいし、自然は豊かだし、楽しく働ける

倉科 私は松井先生、鈴木先生の3つ下。一番歳下なんですけど、生意気って言う。

一同 笑。

松井 でも、上の先生とも壁がないよね。一緒にご飯食べに行ったりして。皮膚科医の中では自分が一番年下だけど、先輩がみんないい先生で甘えられるし、上にいるのが今の先生たちで本当に良かったと思うもん。「こういう診療をやってみたいんです」と相談した時も「これはコストがかかるけど、じゃあこれを導入しようか」とか、すぐに話を聞いてくれる。内科と皮膚科の共通患者さんのことも、内科の先生にスムーズに聞きに行けるし。だから若い先生が入ってもすごく勉強になると思う。

倉科 そうだね。研修医明けたとかは、さすがに困ると思うけど。自分が入院を指示した患者さんの経過がある程度予測できて、あとは学ぶ意欲が大切だよ。

鈴木 外来も病棟もそれなりに経験して、必要なことがだいたい身に付いてると働きやすいかもね。

倉科 さっきの話にも通じるけど、あまり検査を出せないクリニックだと診断がつけられないまま他の病院を紹介して「あの患者さん、結局何だったんだろう」で終わってしまうこともある。でもこのクリニックは外来で完結する病気も多いから、答え合わせができるのもポイントだと思う。

鈴木 自分ひとりで診断がつかなくても、クリニック内の別の先生にバトンタッチしたりね。勉強するチャンスはとて多いと思います。

倉科 「他の先生の目が入る」という、いい意味での緊張感もあって、医療の質が担保される面もあるかもね。



Q3 看護師さんや検査技師さんなど、他職種とのつながりはどうですか？

松井 すごくいい人たちじゃない？看護師さんも事務の人も。気を遣える人が多くて、何の文句もない。逆に気を遣わせすぎてるんじゃないかと思うくらい。

倉科 みんなよく笑うし、明るいよね。

鈴木 お互いの関係性で言うと、思ったことを言えるし、言ってくれる。本当は言いたいことがあるけど面と向かって言えずに心の中でモヤモヤ…という感じがしない。気づいたらお互いすぐ言うし、「いい職場でいい仕事をしよう！」という風土があるよね。口だけの人がいなくて、しっかり行動が伴ってる。

倉科 何か確認する時も、その理由や必要性までちゃんと説明してくれる。「こっちは負けてらんねえな、頑張りよう」って思えるし、お互い高め合える職場です！



DOCTOR COLUMN

これらのことは実際、エール・ホーム・クリニックでも実践されて成果を上げているのですが、“突破せよ”、“シナジー”、いずれもスタッフ個々の力が優れていないと、目的を達成できません。

9人で突破すべきところを4人が力不足であれば、残りの優れた5人が疲弊してしまい、道半ばで斃れてしまいかねません。

また、 $2+2=4$ ではなく、8や10になる、あるいは $3\times 3=9$ ではなく、18や27になるのがシナジーですが、これが $2+-2=0$ になってしまいますし、 3×-3 ではゼロどころかマイナスになってしまいます。

エール・ホーム・クリニックが短期間で現在のような成功を収めたのは、理事長の卓越したリーダーシップに加え、医師、メディカルスタッフ、クラークの皆様すべての力が一級であることに寄るのは、疑いありません。

来る駅前の新たな医療展開も、この“シナジー”で“突破”するに違いありません。

メディカル・ビット・バレーの皆様からエールを送りたいと思います。



さて、新年会にも少し触れなければいけません。

一次会是由緒ある料亭、かも川本館で、福を呼ぶふく会席に舌鼓を打ちました。

二次会は密室での歌合戦で先生方の美声に痺れ、三次会はこれまで老舗ジャズバー、クックテールくぼたで理事長と2人でしゃぼりと、夜更けのカクテルを嗜みました。

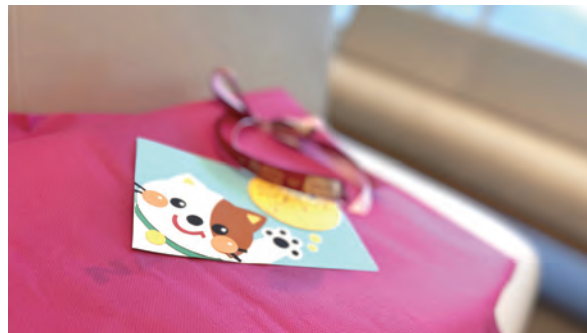
一夜明け、帰路に着こうとホテルで旅仕舞いをしていたところ、なんと、澁谷理事長と安達さんが駅まで見送りに来てくれました。澁谷理事長のこの細やかさと大胆さが、大きい仕事を成し遂げる所だと改めて感得しました。

弘前までの列車の中で、旅の心地よい余韻に浸ったのは言うまでもありません。



中野 創 (なかの はじめ)

皮膚科医師 / 医学博士
弘前大学 医学部 医学科 皮膚科学講座 准教授



そのメディカルビットバレーには私を監事に加えてくれて、設計図の確認作業にも参加させてくれました。

するとあつという間に開業になり、次のプロジェクトも進行中という、破格の瞬発力に瞠目しました。

さらに、お集まりの先生方、スタッフの方など私が直接お目にかかった皆様の人間力が凄まじく強い。

これは間違いなく日本有数の医療集団になるな、と確信したところ

です。私の専門領域でクリニックのお手伝いができる機会もありそうなので、もう今から感動しています。

メディカルビットバレーのこれからの益々のご発展を祈念しております。

新しい年の長岡に寄せて

2023.3

2023年1月21日、メディカル・ビット・バレーのコアスタッフが会する新年の宴にお招きいただきましたので、10時58分に弘前を後にしました。

およそ5時間30分の鉄道の旅です。

長旅のように思われるかもしれませんが、本を読んだり、スマホで音楽を聴いていると、あつという間に時間が過ぎていきますので、何の苦にもなりません。

それどころか、大宮で降りて、上越新幹線に乗るころには、また長岡の素敵なお先生方やスタッフの方々にお会いできると思い、自然とワクワクして来るのです。

予定通り、16時23分に長岡駅に到着し改札を出ると、敏腕秘書の安達さんがわざわざお迎えに来てくれました。

遠くから見ても伊達男と分かる安達さんの車で早速クリニックに向かいました。

途中、これまた若手俳優とした倉科先生をピックアップし、クリニックに到着すると、土曜の診療を終えてカンファレンス室で休憩中の苅谷先生、松井先生、鈴木先生が私を迎えてくれました。

ひとしきり近況などを語り合ったところで部屋を見渡すと、壁に貼ってある1枚の大きなポスターに目が留まりました。

長岡の街を望む風景写真と見えますが、その青空の空間には大きな文字で“突破せよ!”と記してあります。

そう、メディカル・ビット・バレーは今年秋、長岡駅前に新たな医療施設を展開するのです。

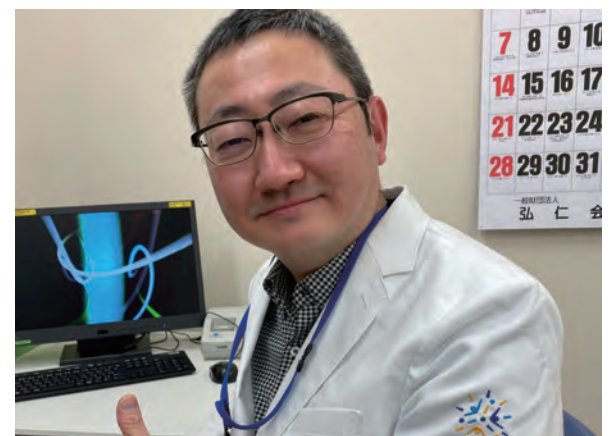
そこではきわめて優秀で腕の立つ医師が診療にあたり、患者の皆様にも幸せをもたらすという期待とともに、これまでになく大きな困難が待ち構えているのかもしれない。

その困難を、澁谷理事長は“突破せよ”と檄を飛ばしているのだろう、と推すことが容易にできました。

澁谷理事長はキャッチーなことばを繰り出して、人の心を掴むのが頗る得意でして、以前には“シナジー”ということばでスタッフをまとめ上げてきた実績があります。

人間力

2021.4

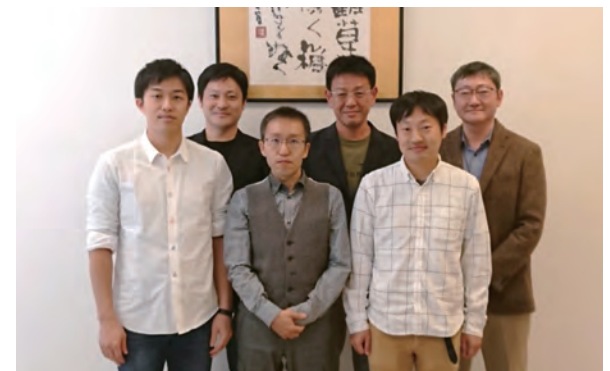


皆様はじめまして、弘前大学皮膚科の中野です。この度、ドクターズコラムに記事を書かせていただく機会を頂戴しましたので、まずは簡単な自己紹介、そしてメディカルビットバレー理事長であり、私の友人である澁谷先生との出会いについて記したいと思います。

私は北海道函館市の出身で、大学入学を機に青森県弘前市に移り住み、その後は現在まで31年間弘前市に住んでいます。

弘前大学皮膚科に所属し、遺伝性皮膚疾患の遺伝子変異解析を専門としております。趣味は音楽鑑賞(ジャズ、ソウル、ブラジル音楽、古いロックなど)、山歩き(富士山、八ヶ岳、上高地、屋久島など)です。

お酒は好きではありませんが、お酒は私のことが大好きのようです。



さて、私が澁谷先生と最初に出会ったのは、なんと、ナンパです。当時医学部学生の澁谷君が友人と二人で、飲食店街の十字路の一角に立っているところを、二次会のお店に向かっての途中で通りがかったのが、「一緒に飲もう!」と誘ったのが始まりです。

その日は苦手なお酒のせいで、何を話したのか覚えていませんでしたが、翌日、「昨日はごちそうさまでした」と私の仕事部屋を二人でわざわざお礼を言い訪ねて来てくれたのです。

これは素晴らしい若者だなと思いましたが、素面で会ってみると澁谷君は人間力が強いと感じました。

人間力とは、目の前の相手の身分や、職業、富裕などを全く知らなくても、あつ瞬間にこの人はすごい人だなと感じる、そういう力を人間力と呼んでいます。

私は職業柄いろいろな人に会いますが、澁谷先生は正に人間力がとびぬけて強いと感じられる人でした。

その後はおたがい澁ちゃん、はじめちゃんと呼び合う仲になり、しょっちゅう街に繰り出してました。

澁谷先生が大学を卒業して弘前を離れた後も、私が勤務地の秋田市を訪ねたり、澁谷先生が弘前に来てくれたりと交友は続いています。

そうこうしているうちに突然、「今度長岡にクリニックを作ります」というではないですか。

「医療と経営の分離と融合」で 病院経営の可能性を広げる

複数の常勤医が横断的に担当する「ワンフロア診療」と、複数医師が専門分野を超え連携して一人の患者に寄り添う「シナジー診療」を提唱し、新潟県長岡市の「医療法人メディカルビットバレー(MBV)」を率いる澁谷裕之理事長。その評判が口コミで広がるなど、新潟県外からも注目されています。澁谷理事長へ未来への展望をうかがいました。



画期的な組織運営で 地方医療に新風

法人を立ち上げた当初は医師もスタッフも少数でした。それが今では常勤医の平均年齢は41歳、他のスタッフも大幅に増え、さまざまなお問い合わせにお応えしています。人口26万人超の地方都市において、黒字経営を維持する秘訣は「医療と経営のよりよい分離」という理念。澁谷理事長はこの理念を今まで一貫して掲げ、実践しています。

病院やクリニックの経営も医師が担うことが多い現状について、「組織運営の仕組みも、医療を支えるスタッフの心理についても勉強していない、経験も少ない医師が、診療しながら先頭に立って経営すること自体に無理がある。かといって医師が運営にはかり注力しては医療の現場が回りません。全体を動かす責任は、医師ではない経営の専門家がすべきというのが私の考えです」と澁谷理事長。

MBVはこれまで、医療側と経営側がフェアでフラットな関係性と信頼を築き、しっかりと意見を交わし合い、黒字経営を維持してきました。

「医療は社会性が強い。黒字を目指すといっても、自分のためだけに利益を追求することは全く違います。より質の高い医療を提供し、社会を良くするために医療組織の黒字経営は必須だし、クリアするのは当然のことですよ」



肝心なのは、「経営は分らないから」とアウトソーシングするのではなく、「組織内のメンバーだけで医療と経営の二つを動かすこと」と澁谷理事長は強調します。「自分の組織だからこそ責任を持って課題解決の判断ができるし、実行に移すこともできる」

「プラスのスパイラルとなって波及していく。MBVに他のスタッフを軽く見たり、偉ぶったりする医師は一人もいません。医師としても人としても総合力の高い『いやつ』ばかりで、他のスタッフもそう。そういう人しか入職してきません。うちは実力主義と少数精鋭を徹底していますから」と澁谷理事長はほほ笑みます。

澁谷理事長が「MBV最大のポテンシャル」と話すチームワークの力は、新型コロナウイルス接種でも発揮されました。これまでにMBVで接種した回数は20万回超(2023年1月15日現在)。そのすべてを医師が接種しています。接種にあたりスタッフ全員で効率的な接種方法を工夫し、試行錯誤して周到に準備した成果です。このスムーズで大規模なワクチン接種はMBVの名前を広く知らしめ、地域医療にも貢献する実績となりました。その結果、新潟県及び、県内自治体との仕事もしています。

必要なのは 組織経営の強化と進化

「医療ではなく組織体制の問題で財政破綻する医療機関は、これからの数年でさらに増える」と澁谷理事長は予測します。

「私は5年後を常に考えています。うちはこの2年で急激に成長しましたが、これですと安泰なんて思っていない。ピークを迎えたら後は下がるだけで自滅しますから、余力を残しながら少しずつでも成長し続けることが肝心なんです。今後はさらに経営に力を入れ、事業規模を拡大し、社会に貢献できる医療パワーを生み出していく。『医療と経営の分離と融合』で未来の医療に備えます」

取材を通して驚くのは、医師同士だけでなく、他のメディカルスタッフや事務方スタッフも含めたチームワークの良さです。澁谷理事長の理念に共感して全国から集まった医師たちは「職種の垣根がなく、互いに切磋琢磨して高め合える」「ここで働くことが本当に楽しい」と口をそろえます。

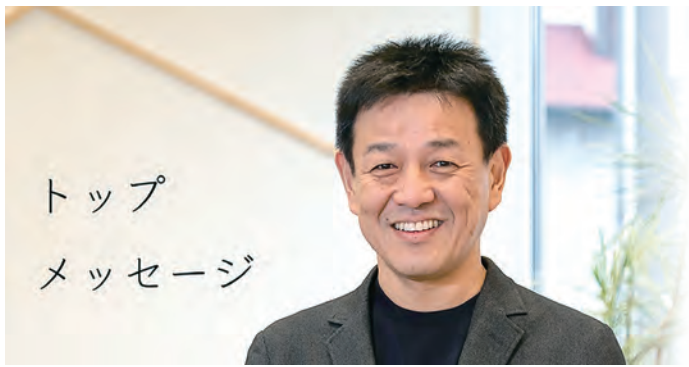
「要はみんなが『心を開く』ことなんです。他者を受け入れ協力し合うことが、結果として自分の価値を上げるし、」



澁谷裕之理事長プロフィール

新潟県長岡市生まれ。弘前大学医学部卒業。米沢市立病院、秋田厚生医療センターを経て長岡赤十字病院にて総合診療科副部長を務める。2020年4月「医療法人メディカルビットバレー」を設立。





トップ
メッセージ

出展/エールホームクリニック 公式note ▶ https://note.com/mbv_aile



前例なきをやる

澁谷 裕之 (しぶや ひろゆき)

内科医師/医療法人メディカルビットパレー 理事長

新潟県長岡市生まれ。弘前大学医学部卒業。米沢市立病院、秋田厚生医療センターなどを経て長岡赤十字病院で総合診療医として研鑽を積み、総合診療科副部長を歴任。2020年4月に医療法人メディカルビットパレーを設立。家庭医療専門医、プライマリケア認定医。好きな言葉は「即断即決即実行」、「適材適所」

文化をみんなで創っていきたくと思います。

今後とも、みなさまからの熱いエールを宜しくお願いたします。

「日常の才能」

2021年3月

いつも、ありがとうございます。
MBVの澁谷です。

あっという間に2021年も3月を迎えました。花粉症持ちの僕としてはツライ時期ですが、街の景色がモノトーンからカラーへと変化する、一番好きな季節の変わり目です。

目の前の景色が激しく変わり続ける毎日。季節の移ろいを遥かに凌駕する、この変化スピードにドキドキが止まりませんが、一方、共感力で僕の周りに集まる、才能ある仲間を力の当たり前にしてワクワクします。

このようなたくさんの力のおかげでMBVは、「緻密」に「スピード感」をもって、目指すべき道を進むことが出来ています。たくさんの仲間たちに日々、感謝です。

僕は、昔から無類の「才能」好きです。もちろん、野球やサッカーなどの華やかなスポーツの才能、将棋や囲碁、数学、金融工学のような「宇宙的な才能」も好きです。ですが、僕は、そこかしこにひっそり咲いている「日常の才能」が大好きなのです。

みなさんはこんな経験ありませんか？
まちのお肉屋さんや八百屋さんなんかで、あらかじめお客さんが何をかうかを、予測できているかのように瞬時に金額を計算する店のご主人と、おつりと同時に袋詰めされた商品を手渡してくるそのパートナー。

このような人たちを見つけると、その才能に興奮します。また、信じられないくらい合理的な動きで、お客さんを喜ばせながら料理や飲み物の注文をどんどん捌いていく居酒屋のご主人や女将さん。ついつい、その才能あふれる劇場感を楽しみに、何度も通ってしまいます。

そういうお店ってどこも繁盛していますよね。

結局、日常の才能って、相手のことをよく見ること、相手のことをよく考えることで、その才能が開花するのだと思います。

もちろん、僕たちに置き換えれば、相手は患者さんであり、そのご家族であり、さらには、地域や社会です。

MBVには日常の才能があふれるスタッフがたくさんいます。組織内のあらゆる壁を取り払って、互いに「よく見ること」、「よく考えること」の環境を創り出すことで、個人の才能を開花させ、更にあらゆる情報を共有することで、組織力が高まり、地域や社会に貢献でき、また、共感されるのだと思います。

MBVは2021年4月に新たな才能を迎えて、そして、あたらしいフェーズに入ります。

引き続き、みなさまからの熱いエールをよろしくお願いたします。

2021春「出会い」

2021年4月

いつも、ありがとうございます。

おかげさまで創立1周年をむかえました。

スでMBVについて書いていきます。

一人でも多くの方々に読んでいただければうれしいです。そして、一人でも多くの方がMBVに共感していただければもっとうれしいです。

本年も、みんなで楽しくワクワク働いて、しっかりMBVを育てていきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

ボクらの「企業文化」

2021年2月

いつも、ありがとうございます。
MBVの澁谷です。

最近、ホームページやSNSのアクセス数が急に増えてきていて、ちょっと緊張してしまいます。(2021年4月5日現在)

私たちのこだわり
「あたらしい医療のカタチ」を社会に提供するために始まったMBVには、当然ながらこだわりがたくさんあります。そのこだわりをいかに自然に、楽しく、知らず知らずにスタッフみんなに習慣化してもらうようにする(仕向ける)こと、これは大事な僕の役割です。



こだわりの一つに「顔出し」があります。

というのも、僕は、企業にとって、とりわけ医療分野では「顔出し」=「品質保証」と考えているからです。

あたりまえ過ぎますが、医療は医師だけで成り立っているわけではありません。全職種、全スタッフの仕事で成り立っているのです。精密な時計ほど大小たくさんの部品で成り立ち、どこかひとつでも故障すれば動かなくなります。原因が小さな部品であるほど見つかりにくく、修理には困難が伴います。僕を含めた全てのスタッフの全ての仕事、つまり全ての部品に「品質保証」をする意味で、MBVは全員「顔出し」します。

このことは、スタッフみんなに、それぞれが自分の役割を認識し、仕事に責任をもつと同時に、すべての職種が「必要性」という尺度ではフェアであることを実感してもらう意味もあります。

フェアであることを実感し、それぞれの仕事に誇りを持つこと、これも結局は「品質保証」につながります。

どんなに有能で、どんなに素晴らしい過去の実績があっても、「顔出し」できない方は採用しないし、逆にいえば、「顔出し」できれば、経歴や実績を問わないのが、MBV流です。

「顔出し」は、未来に対する覚悟だと思っています。

企業文化の創出
実績も、お金も、信用も…全てがナイナイ尽くしの創業期に、理想の実現に向けて、みんなで創る習慣化はまさに企業文化そのものです。ゼロ(マイナス)から創りあげることのできるスタートアップの特権なのです。

4月から新たにたくさんの仲間が加入します。共感さえ頂ければ「来るもの拒まず、去るもの追わず」のMBVですが、ほんとうは誰にも去ってもらいたくありません。

誰もが離れたくない、そして誰もがずっと働きたいと思うような企業

創業への想い

2020年10月

医療法人メディカルビットパレー(以下、MBV)は、医師不足に悩む地方に信頼できる医師を集め、育てるシステムを創り、地域医療を活性化することを目的に創業。全ての診療科が同じフロアで協力しあいながら、各自がプロとして仕事に励むことで、効率のよい診療体制の構築とサイコーの成果の実現を目指しています。

質の良い医療を提供するには、そこで働く人たちがワクワク楽しく、前向きに仕事ができる職場(環境)が必要です。私たちは仕事に人生の多大な時間をかけるわけですから、ワクワク、楽しく仕事をしなければもったいないと思います。MBVでは、スタッフルームの共有を図るなど、さまざまな取り組みを行うことで、医療業界にありがちなヒエラルキーを極力なくしフラットで良好な職場づくりを図っています。約170年前、アメリカ・ミネソタ州の雪深い田舎町で小さな診療所としてスタートしたメイヨー・クリニックは、単なる医療機関でなく、事業体として世界的に評価され、今や同国を代表する医療機関の一つになっています。私たちMBVも、日本海側の雪深い「ながおか」から日本版メイヨー・クリニックを目指します。行政、民間、大学に積極的に働きかけ巻き込んで、医療を柱とした圧倒的に新しい価値観を創造し、MBVを誰もが働きたいと思う憧れの職場にしたいのです。



「好きな仲間と、好きな場所で、ワクワク仕事しながら、サイコーの業績をあげる!」は、MBV普遍のテーマです。

医療は誰もが必要とする普遍的な分野で、社会全体を元気にする力をもっています。MBVは医療を通じて、想像力、勇気、仲間のチカラで「ながおか」に最大限貢献していきます。新しい医療が、「ながおか」から始まります。

2021年の誓い

2021年1月

2021年、誰にとっても、MBVにとっても激動の1年が幕開けしました。こんな時だからこそ、みんなで一丸となって常に変わらぬものを意識して、進むべき先をずっと見据えて、右往左往せずにその方向に1ミリでも前進する1年にします。

MBVは構想開始から約2年半、医療法人設立から10か月、クリニック事業開始から5か月と歴史が浅いです。(2021年4月5日現在)

この短期間で僕の想定をはるかに超えるスピードでMBV理念に共感してくれるいろいろな分野の仲間が増えました。

一方、この変化、スピード感にMBVを知らない方々を驚かせたかもしれません。そんなタイミングで昨年末に『財界にいがた』の取材を受けました。なかなか言葉で表現することは難しいと感じていたMBVのありのままの姿が記事になりました。

今年はさらに多くの方々にMBVを知ってもらい、共感していただけるように積極的に活動していきます。

本来なら持ち前のいつでもどこでも誰にでも会いに行くフットワークの軽さで勝負したいところですが、もうしばらく我慢です。それでも、まずは「さっさとやってみる」が大事ですので、この場に月1回のペー

倍返し

2021年6月

08

いつも、ありがとうございます。
日々、新しいご縁、広がりに感謝する毎日です。

今まで、コロナ禍については、あえてほとんど触れてきませんでした。どんなに報道を見ても、どんなに専門家の話を聞いても、読んで、コロナ禍の本質が掴めず、全体像が自分の中でつながらなかったからです。

こんな経験はしたことがありません。
このような状況で、エールホームクリニックでは唯一、未来への希望が見えたコロナワクチン接種に全力を注ぐことに決めました。
誰しも、未知の世界には不安があります。それでも、まずはやってみて、走りながら改善、調整すべきと思ったのです。

少しでも接種の不安を取り除こうと、クリニックの全スタッフでアイデアをひねり出しました。
また、安全で効率の良い接種を行うために普段から関係性を大切にしてきた調剤薬局の株式会社共栄堂と、さらなる協力体制を構築しました。

こうしたチーム体制によって、接種に来られたみなさまの表情は接種前と接種後では全く違います。
クリニックを出られるときは、笑顔が広がります。
つながらなかったコロナ禍で、コロナワクチン接種は社会を前に進める、平和をもたらす手段であると実際に運用してみて初めて確信しました。
コロナ禍で個人や組織や社会が失ったものがどれくらいかは、もう想像できません。
それでも、ここから立ち上がる、取り返すしかないと思います。
職域接種が始まります。(2021年6月20日現在)

たくさんの企業様と関わらせていただいています。
民間企業の社会貢献に対する姿勢とスピード感到に感動しています。
僕たちも、誰もが笑顔になる日のために、みんなで汗をかくつもりです。
コロナ禍を乗り越える過程で新しい出会いやつながりができ、それによって社会を底上げするような新しい仕組みができるならば、それがコロナ禍への倍返しなのかもしれません。

引き続き、みなさまからの熱いエールを宜しくお願いたします。

前橋にて

2021年7月

09

いつも、ありがとうございます。

今、職域接種の仕事でクリニックのスタッフといつもお世話になっている共栄堂の薬剤師さんとのワクチンチーム十数人で群馬県の前橋市に来ています。
職域接種では、長岡市の企業だけでなく、上越市、阿賀野市など新潟県全域、そして今回、ご縁をいただき、ついに県境を越えました。
職域接種に関わることは、すべて2021年6月に入ってから始めましたので、このスピード感は凄まじいものです。

当クリニックのコロナワクチン接種は、すべて医師が問診と接種をワンストップで行いますので、驚くほどスムーズです。
受け付けから接種まで1分程度です。
医師による接種は相当、みなさんに安心感と満足感をもってもらえるようで大好評です。
エールの看護師さんは捌きのエキスパート、医療事務さんはもてなしのエキスパートで、適材適所の運営をしています。



医療は誰もが関心のある普遍的分野で、まちづくりや市民生活、政治や経済にいたるまで、ありとあらゆるところに通じているので、その社会的な潜在能力は極めて高いです。
とりわけ、地方ではなおさらです。
地域医療というシステムの下に眠るエネルギーを最大限に有効利用して、長岡の価値を高め、長岡を「あたらしい地域医療発祥の地」にする、これこそが「エール長岡プロジェクト」です。

どんなに壮大なことでも進め方は同じで、イメージ、企画、実行、カイゼンをほぼ同時に行ってスピードをあげることが重要だと思います。
スピードは、緻密な仕事をすうて必要不可欠です。
大変だけれども意思決定の回数が多いほど、正確に成長します。
割合の問題で意思決定回数が多いほど、間違った時のダメージは少なく、わずかな軌道修正ですみます。結果的に最短です。あたらしい事を進めるときは、いつもS字曲線の微分をイメージしています。
高校を卒業して長岡を出ましたが、高3の時に数学の担任から教えてもらったことがずっと役に立っています。そして、5年前に鮭のように長岡に戻ってきました。

“長岡に恩返しする” 今がその時だと思っています。

はっきり言って、地方にはチャンスがあります。
“閉鎖性”は“かのうせい”と読めばいいのです。
地方に眠るエネルギーは地下エネルギーそのものです。
そう言えば、小学校の時、長岡は原油が出るって習った気がします。これを書いていて、僕の礎は長岡だと改めて認識しました。無類の川好きです。
ここから、みなさまの期待に応えるべく、さらにギアをあげ、スピード全開で進んでいきますので、引き続き熱いエールを宜しくお願いたします。

前例なきをやる

2021年5月

07

いつも、ありがとうございます。

山の天気のように目まぐるしく状況が変わる中で、常に変わらないものは何かを考えながら仕事をしています。
こうした情勢の時は、どこもかしこも分断と協調の綱引きを繰り返していくものだと思います。
瞬間的均衡の連続が推進力になると思いますが、非常事態の中、着実に前に進むためには意思決定の数が一番大事になっていくのではないのでしょうか。
MBVは、2020年4月に設立ですから、まさに非常事態の中で生まれました。

起こることのほぼすべてが、“前例なき経験”です。

ですので、意思決定の数にはこだわり続けました。
もっと穏やかで安定したときに生まれたかった気持ちはもちろんあります。
でも、こういう状況の中でゼロからつくり、育てる経験はそうそうできるものではありません。
経験は一番の財産です。
根っからの前向きな性質ですので、悪風の中のかじ取りを楽しんでいます。

こうした環境の中で育ったMBVは僕の想定をはるかに超える強力な組織になったと思います。
一人ひとりが組織の変わらない底流を意識しながら、それぞれの自由な考えの中、適材適所で役割を果たすことが出来ます。シナジーが溢れかえっています。

そんな感じでチームMBVは出来上がりました。
いよいよ、その運用力を存分に発揮すべきときが来ました。
コロナウイルスワクチン接種プロジェクトをスタートします。
空前絶後のコロナ禍に対して、“前例なきをやる”です。
MBVとして長岡モデルを提案しています。どこまでも前向きです。
こどもの頃に感動した「北風と太陽」、勝つのは決まって太陽なのです。

いろいろな問題に直面すると思いますが、一つ一つ丁寧にスピード感をもってみんなで乗り越え、みんなで成長していきたいと思っています。

今後とも、熱いエールを宜しくお願いたします。

2021春「出会い」

2021年4月

05

いつも、ありがとうございます。
おかげさまで創立1周年をむかえました。

MBVでは、2021年4月から医師4名、看護師3名、スタッフ3名が新たに仲間に加わり総勢30名となりました。
すごいエネルギーを感じながらも、ちょっと現場の隅々まで目が行き届かなくなりはじめました。予想はしていましたが、うれしきしみな気分です。春なのには。
春は出会いの季節です。
現在MBVには10名の医師がいますが、よく「どうやって集めたの？」と聞かれます。
正直に言えば、みんな友だち、または友だちの紹介です。だから、一瞬で集まりました。
僕は個人的にSNSをしないので、今どきの友だちは少ないんです。そして、根っからの一人っ子で友だちも多くありませんが、昔から少ない友だちを大切にしてきました。

僕の友だちは普通に10年以上、連絡を取ってない人が多いです。10代、20代、30代とその時代ごとに一緒に過ごした友だちは最高の思い出であり最高の宝物です。
そういった意味で、友だちを大切にすることは思い出を大切にすることに他なりません。
そんな思い出や宝物が時を経て熟成し、時を超えてつながり、新しい価値をもつ、新しい価値をつくるカタチとなってあらわれたりすることはサイコーです。それがMBVなのだと思います。



ちょっと前にお友だち内閣と言言葉がありました。政治はさておき、新しいことを誰かと始める時に、そのパートナーは友だちしかないと考えています。
初対面の方と出会う信用を得るには、それなりに時間がかかります。新しいことはスピードが命です。ですから、はじまりは友だちなのです。友だちと始めることで節約できた時間を、新しい出会いに対しての信用を得る時間にあてるのが重要だと思っています。出会いはとても大切で、人生の全てといっても過言でないかもしれません。そして、友だちが友だちを、出会いが出会いを連れてきてくれます。出会いの時、一番、緊張する時間です。大人の出会いには嬉しく、そして緊張します。いろいろな出会いがあるけれど、ウレシキモチは共通のようです。

新しい出会いを求めてMBVでは大プロジェクトを企画中です。まだ見ぬ新たな出会いにワクワクがとまらない春なのです。

引き続き、みなさまからの熱いエールをよろしくお願いたします。

トップメッセージ特別編 エール!長岡

2021年4月

06

いつも、ありがとうございます。
2021年4月26日ちょっと肌寒い青空のもと、駅前再開発の起工式・安全祈願祭に行ってきました。
来年初、この地でMBVの第2弾「エール長岡クリニック」を始めます。



MBVは完全な理念先行型なので時間は本当に大切です。圧倒的なスピード感がなければ、世の中は変えられません。

本年も宜しくお願いたします。雪が舞う極寒の神社はなぜ心が洗われる感じがして大好きです。

神社と言えば、歴史と伝統です。学ぶことがたくさんあります。

僕にとって、歴史は失敗の本質を、伝統は継続の力を学ぶためのものです。

どちらも今のMBVに必要な教養です。

2022年のテーマは選択と塩梅です。

今年、MBVはいよいよ創業期から成長期に移行すると思っています。創業期は何もないところからのスタートでしたので、ひたすらがむしゃらに無我夢中でした。

そんな中でたくさんの方々から共感、ご支援をいただき着実に成長し、核が出来たと思います。

MBVの理念は普遍ですが、成長する過程にはこれからたくさんの選択が待ち受けていると思います。

選択は自由であり、身震いするほどの緊張と責任を感じます。一つ一つ丁寧に心を研ぎ澄まして最適な選択をしていきたいと思っています。

たいへんだけれども選択できることほど、幸せなことはありません。そして、塩梅。この言葉が昔からなぜか好きです。

ニュアンスはバランスだと思いますが、個人的にはもうちょっと曖昧で趣きがあり心に響きます。まさに塩梅が良い言葉です。



創業以来、前だけを見てスピード全開でMBVを創ってきました。目指すところはまだまだ遙か遠くですが、想定外の速さで、想定外のつながりで想定外に大きくなりました。

これからの時代に、これからの地域医療にMBVが必要であることを確信しています。

だからこそ、塩梅が必要ときだと思えます。

そういう訳で、今年は塩梅を見ながら、たくさんを選択をしてじっくりとMBVを育てていこうと思います。

今年も皆さまからの熱いエールを宜しくお願いたします。

新しい風

2022年3月

13

いつも、ありがとうございます。

数年前に初めてMBVをイメージした時、いつか行政と仕事がしたいという漠然とした目標がありました。

今、ワクチン事業の分野で見附市と新潟県と仕事をしています。

見附市とは3回目の追加接種と5歳から11歳の子供たちの接種の合計1万回を行います。初顔合わせから決定まで1週間程度とまるでベンチャー企業のようなスピード感でした。

すぐ隣にこんなすごい市があるとは驚きでした。

大ファンになりました。

新潟県とは追加接種の加速化センター長岡、そして新潟県大規模接種センター上越の仕事をしています。新潟県の医療行政のスピード感、実行力にはいつも感動しています。

今春からは、新潟県内の初期研修医の数も大幅にアップするとのことで大変うれしい限りです。

一人でも多くの研修医の先生たちが将来にわたって新潟県で活躍できるとよいなあと思います。

6年前に僕は新潟県に戻ってきました。

その時に比べて、新潟の医療に明るい光がさしていることを実感しています。

もともとMBVは、医師偏在問題を抱えていた新潟県の医療界で新しい風を吹かせることを目的に創業しました。

最初は、まったく周りから理解されなくてなかなか感じていましたが、地道な活動を続けていると着実に共感してくれる仲間が増えていきました。

どんな大きなことも、最初のテーブルは小さいものだし、あきらめずにひとつひとつ丁寧に実行、改善を繰り返すとやはり夢は実現できると思っています。

共鳴、共感の力はすごいです。

今日2022年3月1日に、リバーサイド千秋内にエールワクチンセンター

お気軽にご連絡ください。

引き続き、みなさまからの熱いエールを宜しくお願いたします。

憧れのカイシャ

2021年11月

11

いつも、ありがとうございます。

産業医の集中講座で東京に来ています。

ネクタイと都会が苦手で、自分探しの旅を中断し、地方に移り住んだ経験をもつ僕としては1週間の東京生活はなかなか感じず。出来るかぎり、都会にいることを忘れるために会場とホテルとホテルに隣接するコンビニにしか行かないようにしています。

ちょうど、好きなタイプの日本シリーズもやってるし、缶ビールを飲みながらちょっとだけ仕事のことをあんまり考えないようにしてクールダウンしています。

それでもやはり、MBVのことや長岡のこと、地域医療のことを考えると、いてもたってもいられなくなります。ほんと、出張は苦手です。



ところで先日、MBVでは事業拡大のためにリクルートプロジェクトをはじめました。

昨今、医療者不足が問題になるなか、うれしいことに、とても多くの方々から関心を持っていただきました。特に看護師さんは、5人の募集に対して20人を超える応募がありました。

MBVを始めるときに、いつか誰もが憧れるカイシャにしたいという大きな想いがありました。

もちろん、まだまだそんなセカイ観ではありませんが、ちょっと先を考えて目の前の目標に向かってダッシュを繰り返すと知らず知らずのうちに持続可能な、そんなセカイ観が出来ると思っています。

いよいよ、来年は医師リクルートに力を入れていきます。

地方の医師不足を解決するには、切磋琢磨が必要です。というのも、医師は子どもの頃から、競争の中でしごかれて生きてきた人が多いのです。

よし悪しは別にして、それが医師の特徴だと思います。そして、医師免許と言う最強のパスポートを持っています。

より働き甲斐のある、より自分を評価してくれる、より挑戦できる環境に行くことは当たり前なのです。

有能なビジネスパーソンがいろいろな会社を渡り歩くことと、有能な医師がより条件や環境のよい組織に身を置くことは本質的に同じです。地方の大病院でもよくあることです。

大事なことは、それぞれの組織が働きたいと思える雰囲気をつくり、その中で切磋琢磨する環境を当たり前にする、つまり文化にすることだと思います。そうすれば、医師は自然に集まります。

MBVは、創業1年。まさに文化づくりの真っ最中です。

有能で面白い、個性豊かな先生たちが集まり、切磋琢磨し合ってくれば地域医療問題は必ず解決します。

理想を現実にするために、さらに緻密にスピードをあげてみんなでワクワク進んでいきたいと思っています。

引き続き、みなさまからの熱いエールをよろしくお願いたします。

選択、そして塩梅

2022年1月

12

2022年の新年、明けましておめでとうございます。

MBVの大きな見通しがついて、年末年始は久しぶりに家族と楽しく過ごすことができました。

大晦日に弥彦神社、元旦には蒼紫神社を訪れ、新たなキモチでヤル気いっぱいになりました。

明るく新年を迎えることができるのも、患者さま、ご支援くださる皆さまのおかげです。

心より感謝いたします。

接種後のみなさんの笑顔と感謝の言葉に癒され、さらにヤル気がみなぎります。

職域接種は医療だけでなく、マネジメント力を必要としますので、当クリニックには最適です。

もし、職域接種が再開されるようでしたら、県内外とわず、関心のある企業さまは気軽にお問い合わせください。

また、現在、ワクチン供給不足のために一旦中断している個別接種におきましても、事前に長岡市内の事業所、町内会、サークルなどでの希望がありましたら早めにご相談ください。

当クリニックのワクチンプロジェクトには、たくさんの方々からご賛同、ご支援を頂いています。この度、株式会社共栄堂、株式会社北都よりご寄稿いただきました。

最後に私ごとですが、これを書いている2021年7月15日に48歳になりました。4回目の年男です。

“あつとゆーま”が正直な感想です。

これからも医療を通じて社会の底上げに少しでも貢献できるように、みんなと力を合わせて頑張りたいと思います。

引き続き、みなさまからの熱いエールをよろしくお願いたします。

和を以ってスタンドプレー

2021年9月

10

いつも、ありがとうございます。

創業以来、少数精鋭で今の時代に最も必要なスピード感を意識しながら1年間運営してきましたが(2021年9月現在)、凄まじい勢いでどんどん広がるセカイに、さすがにシナジーもあふれかえり、エネルギーが充実し、新しい仲間が必要になりました。

MBVが提案する「あたらしい医療のカタチ」実践の場として2023年9月にエール長岡クリニックの開設は決まっていますが、2025年には新潟市にエール新潟クリニックを始めようと考えています。こうした事業規模拡大のために、リクルートプロジェクト、“エールに集合”をスタートします。

僕がMBVを始めた理由は、医師の孤独さを解消することで医師不足に悩む地方に医師を集め、マネジメントとリーダーシップのスキルをもつ医師を育て地域を活性化するためです。

医師って、なぜか孤独な人が多いと思うのです。

これほど人気がある職業で、いつの時代も世の中に必要とされる分野なのに、その中心が孤独というのはなんとも寂しいです。

そんなわけでMBVに集まった10人の平均年齢41歳の医師たちは、いつも楽しそうです。

医師が楽しそうだと、必然的にスタッフはみんな笑顔になります。医療システムの中で一番大事な構造です。

MBVはめちゃくちゃ自由な風土です。年功序列もまったくありません。みんな、それぞれに和を以ってスタンドプレーで良いのです。

そうした緩いスタイルで戦略的に圧倒的スピードで医療問題や医療に通じる社会問題の解決を行っています。



今回、MBVでは、全国約30万人の医師の中から新しい仲間を求めます。0.01%、30人くらいの先生たちに参画してほしいと思っています。たった0.01%の前向きな、新しいチカラで確実に地域医療は激変します。地域医療が変われば地方は変わります。地方が変われば…あつという間です。

これを読んでいる先生たちは、少なからずMBVに興味があるのだと思います。

僕が思うに医師免許は日本では最強のパスポートです。いつでも、どこでも、誰とでも働けます。その中で、今の時代はやはり誰と働くのか、誰とやるのか、そして誰と成し遂げるのかです。

MBVで、一緒に和を以ってスタンドプレーできる日を楽しみにしています。

1つは理念を同じくする直営のクリニックを増やすことです。個性豊かな先生たちが、根っこでつながり同じ方向を向いていることが重要です。ですので、人材は全て常勤かつ自前で集めなければなりません。それが出来れば、クリニック事業としての拡大は続くし、その力でMBVの概念を広げることができると思います。ただ、これには時間もお金もかかるし、かつ伝統的な医師という職業の壁があります。一方で、最近新しい考えをもつ医師が一気に増えたことを実感しています。その実感に対してどうしても、一度チャレンジしたくなったのです。

もうひとつは、エールホームクリニックの年間成長率3000%超の実績を生かして、全国に概念を伝える方法です。これははっきり言えばお金がかからないし、いつでも出来ます。

今回は、著しく猛スピードで変わる医療界での新しい力、新しい価値観の広がりをひとつめの方法で実際に感じてみたいのです。最初で最後の大型医師リクルートになるかも知れません。2024年春、全国の個性豊かで有能な、そして同じ時間をともに過ごしたいと思える先生に出会えたらと思います。

引き続き、皆さまからの熱いエールを宜しくお願いいたします。

半年、一年、三年と。

2022年10月

いつも、ありがとうございます。2022年10月8日にエールホームクリニックが2周年を迎えることが出来ました。患者さま、応援して下さる皆さま、そして何より一生懸命働いてくれるスタッフのおかげです。心より感謝いたします。

2年前の今頃は開業したばかりで、患者さんが全くいない中、半年くらい先のことを考えていました。本当に何もなところから始めたので、資金繰りとスタッフのモチベーションの維持に全力を尽くしていました。

当時、エールの理念は僕が想像していたよりちょっと時代が早すぎました。自分の頭の中では100%つながっているのに、なかなか周りに理解されなくて、「ヤッちゃった感」満載でした。チョコQは切れなギリギリまで引っ張って発射するのが一番だと自分に言い聞かせましたが、自分の力だけではどうしようもありません。なぜか僕は若い時から人にだけはものすごく恵まれていて、ピンチになると必ず助けてくれるスーパーな人が現れます。この大ピンチのときも、次から次にすごい人が現れ、信じられないほどの大チャンスをもたらしました。あとは全力でやるのみでガムシャラに働きました。

1年前の今頃は、仲間も増えて患者さんも増えて、1年先のことを考えていました。ちょうど、職域接種を経験していたので、やはり次は自治体と仕事がしたいと思っていました。それが通じたのか、実際に新潟県の大規模接種や加速化センターを皮切りに、見附市、弥彦村、関川村、柏崎市と今でも仕事をしています。やはり行政と仕事ができることは、僕が最も大切にしている信用の力なのでこれ以上の喜びはありません。ご縁を大切にしたいと思います。

そして、今は3年後のことを考えています。(2022年10月22日現在)最近、見据える先が確実に長くなっていることに気づき、MBVがすごい勢いで成長していることを実感しました。

正直、怖いです。僕たちはコロナ禍の中、マイナスから一つ一つ自分たちで創り上げてきたのでそれぞれの役割を皆がわかっています。マイナスの中での創業経験がMBVのパワーの源なのだと思います。これから新しい人材も集まり来年秋には新しいクリニックが始まります。いろいろなものが混ざり合い新しい大きな流れが生じ、おそらく、2025年までは成長を続けるとしています。逆に言えば、現状では2025年にピークを迎えてしまうと考えています。ピーク到来をどうやって延ばしていくか。ヒントは足元にあるものだから、日常の生活の中で毎日、答えを探しています。

引き続き、皆さまからの熱いエールを宜しくお願いいたします。

白いのでぜひご覧ください。13分40秒あたりと26分17秒あたりで、記者の質問に対して磯田市長がコメントしています。※動画のQRコードはP.10を参照

スタートライン

2022年7月

いつも、ありがとうございます。長岡も梅雨明けしました。毎日、暑いですが。真夏に飲むギンギンのビールも、汗を吹き出しながらのカレーやラーメンも大好きです。そんな感じで毎日のアツさを楽しんでいます。

天候ばかりでなく社会情勢もここ数年は経験したことがない事が毎日のように起きていますが、現実なので世の中やはり何でもありませんなどと改めて感じています。変化が激しい時に大事なことは、本質がブレないことだと思います。平和で穏やかな時は多少ブレてもごまかせますが、こういう時代は見破られます。逆に言えば、本物をつくれる時代なんだと思います。

さて、そんな変化の激しい日々の際を狙って、初めて1泊2日で社員研修会を行いました。当日は、朝7時からクリニックでほぼ風物詩化した全スタッフの大写真撮影会を行い、その後、チャーターしたバスに乗り込み、弥彦を経由して月岡温泉に行ってきました。一応、社員研修会と称しているのですが、「おもてなしを学ぶ」なんてしましたが、本当のところは創業以来ずっと走り続けてきたのでちょっと一休み、パワーチャージが目的です。ズバリ、メリハリです。もともと元気なスタッフたちはさらにパワーアップしたようです。僕としても、実際に集団で行動してみても初めて気づいたこともあり、すぐに大好きなカイゼンができたので非常に有意義な社員旅行でした。



前に進むことはもちろん大切ですが、それよりも現状の問題点をすばやく見つけて改善することが何より重要です。どんなこともやはり基礎力。基礎がしっかりしていないと積み重なるわけがありません。最近、若者へのメッセージ的なことを求められることがしばしばあります。基礎を積み上げることだと思います。いっぱい考えて行動して経験をすることだと思います。大変だけれども、刻一刻と変化する今は、実はとてつもないチャンスです。変化は思考、行動、経験をすることはもってこいです。特に僕のように何もなところから生まれ育った人、つまり基礎力のない人間にとって、これ以上のチャンスの時代はないと思います。「まずは何でもやってみよう」と、何もなかったかつての自分を思い出しながら若者たちへエールを送りつつ、やっとスタートラインに立つことのできた今の自分にその言葉を毎日言い聞かせています。

概念を広げる — 全国医師リクルート —

2022年8月

いつも、ありがとうございます。新潟県内でMBVが運営するエールホームクリニックの価値、認知度は十分に高まったことを日々感じています。感謝の気持ちでいっぱいです。いよいよ、MBVとして県境を超えて全国に挑戦するときが来たと思います。今回、全国からMBVの理念に共感する先生を10人募集します。よくいろいろな方面から、どこまで事業拡大するのかを聞かれます。MBVの社会的な役割は、新しい医療のカタチの概念を広げることです。広げ方は2つ。

をオープンします。地域の、社会の、そして時代の要請にただ応えるためにつくりました。おそらく、前例なきワクチンセンターです。多くの関係者の皆さまに応援してもらっています。

見附市民も新潟県民ももちろんですが、やはり長岡市民から利用していただきたいです。MBVの本拠地は長岡なのです。18歳の時、地方の閉鎖性に未来を感じずに長岡を出ました。42歳の時、今度は逆に地方の閉鎖性こそが大チャンスと気づき舞い戻ってきました。長年、変わらなかったところには果てしないエネルギーがたまっていきます。いつの時代も新しい風には多少の摩擦はつきものですが、それ以上にむしろ向かい風は上昇気流を生み出しますし、そして何より新しく本当に良いものなら自分の想像をはるかに超える、仲間という追い風が現れます。そして、誰にとっても当たり前の存在になれば自然に摩擦は消えると思うのです。それはいくつもの歴史が証明しています。地方は超絶面白い、なぜならチャンスがあるから。今、僕が一番思うことです。

引き続き、皆さまからの熱いエールを宜しくお願いいたします。

原点

2022年4月

いつも、ありがとうございます。4月1日はMBVにとって、特別な記念日です。2年前の今日、つまり2020年4月1日にアオーレ長岡で磯田市長と共同記者会見をしました。MBVが世に出た瞬間です。言わば、原点です。



当時は医療法人が設立したばかりで、クリニックも始まってなく実体がありませんでした。あるのは、理念と企画と情熱と若い医師集団だけでした。そんな状況の中、MBVの真の価値を理解し、大チャンスを与えてくれた長岡市、磯田市長には感謝しかありません。医療業界はいろいろ大変なようで、そこを短期間で調整して共同記者会見を行った覚悟は凄まじいことと思います。会見の前日には長岡市の医療行政のトップ自ら、当時現役の長岡市医師会長のところに僕を連れて行ってくれ話をまとめてくれました。圧倒的な実行力とスピード感です。やはり、長岡市は心底、新しいことやイノベーションが大好きな街だと思います。

あれから2年、僕たちはその勇気とその期待に応えるべく全力で考え、知恵を絞り出し、行動してきました。エールホームクリニックの運営を通じて、多くの事を経験し、さまざまなカイゼンを繰り返してきました。あまりに多くのことが変わったけれども、その底に流れる概念は2年前と1ミリも変わりありません。MBVの第二弾であるエール長岡クリニックは、この激動の2年間で得た全ての英知を詰め込み、さらに広がりが続ける共鳴、共感の力で進化し続けます。

長岡市民の皆さまの生活を支え、また新しい街づくりのための存在になると確信しています。本物には時間がかかります。もう、しばらくお待ち頂ければ嬉しいのです。全力で楽しくワクワク頑張ります。引き続き、皆さまからの熱いエールを宜しくお願いいたします。追伸 今回は改めて「原点」ということで、2年前の長岡市との共同記者会見をノーカットで公開します。ちょっと恥ずかしいですが、かなり面

チャンスは一瞬

2023年4月

20

いつも、ありがとうございます。
この4月でMBVは創業3年を迎えました。
いろいろありましたが、過ぎ去ってみればあっとゆーまで楽しく充実した日々でした。

このままでは先が見えない地方都市において、若い思考、行動で稼ぐことの必要性を、もっとも伝統的な医療界から広めるために取り組んできました。



高校を卒業するとき、長岡が嫌で嫌で堪らなくて、ただそれだけで東京に行きました。
紆余曲折を経て、7年前、ひょんなことから二十数年ぶりに長岡に戻ってきました。変わらずに閉鎖的なままで居続ける長岡をみて、自分で変えようと思いました。
若い人たちが、働く所がないとか魅力がないからではなく、視野を広げ大きく成長するために、後ろ髪を引かれながら一度離れる。長岡をそんな街にしたいのです。

今年の1月16日には、渾身の勝負手として日本経済新聞に、やはり閉鎖的すぎる医療界に対する想いを意見広告しました。
医療は誰もが関心のある領域だからこそ、フェアであるべきです。いわゆる既得権益とは縁のない領域であるべきだと思っています。常に切磋琢磨と健全な新陳代謝が必要です。

そうした想いに日本経済新聞が共感してくれたのか、月曜日の4面掲載という快挙となりました。

今、社会がMBVを必要としていると確信しました。
そして、この想いは経済界にも届いたようです。
東証プライム上場企業の創業者から、情熱のこもったエールと計り知れない支援をいただき、さらに、世界を相手に仕事してきたハイパーなビジネスマンが、東京から長岡に来ることになりました。
やはり凄い人はオーラと行動力が違います。

今、MBVでは同時多発的にいろいろなことが起きています。
集まるチカラの大きさもスピードも桁違いになりました。
明らかにステージが変わったのだと思います。
MBVは、過去にしがみつかず、新しい世界に挑戦していきます。
世界は変わり続けますが、チャンスは一瞬です。

引き続き、皆さまからの熱いエールをよろしくお願いいたします。



MBVの終わりになき旅の始まりを感じることできた感動的な新年会でした。

弘前大学は、僕を含めて3人の医師の出身大学であり、また同学の皮膚科学講座とは遺伝子診断で共同事業をしています。
歴史、伝統ある大学と革新的なクリニックが500キロの距離を超えて、今の時代に必要な新しい医療のカタチを試行錯誤しながらともに創ろうとしています。
新しいことを口にする人はたくさんいますが、口に出すことと実際に行動することは、全く別物です。
大学とクリニックって違うでしょって頭だけで考えたらもう何もできません。
まずはやはり、やってみるです。
同じような人や組織ばかりが集まっても何も生み出しません。
それぞれ違って根っこが繋がってればそれで良いのです。

医学部が冒険せずに平均化したら、医学の進化は望めないし有能な人は大学には残りません。
だってそんな環境は単純につまらない。
堂々とみんなで冒険を、競争を楽しむのが一番です。

いよいよ、弘前大学一筋の中野先生が皮膚科の教授選にでるようです。
歴史的に多くの異端を生み出してきた弘前の街に、令和の異端教授が誕生することを願っています。



頑張れ、はじめちゃん。
コロナはあらゆるものを壊し、考え方を変えました。
これから、日本の医療システムはもの凄いスピードで変わっていくと思います。
そのスピードについていけないところは淘汰されるんだと思います。
ここは踏ん張りどころと、いつも自分を鼓舞しています。

引き続き、皆さまからの熱いエールをよろしくお願いいたします。

抗い、渦を巻く

2023年1月

18

明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願いいたします。

激動過ぎた2022年をなんとか乗り越え、2023年を迎えることが出来たことが素直に嬉しいです。それくらい2022年はギリギリでした。
この閉塞感とがんじがらめのルールの中で、最大限の成果を出すことは本当に至難の技です。
汗水流して頑張ってくれる有能なスタッフ、力強く支えてくださる皆さまには感謝しかありません。心からありがとうございます。
体力だけが自慢の僕も年末は電池が完全に切れて、弥彦の温泉でキズを癒し、大晦日の弥彦神社、元旦の蒼紫神社で御祈禱しパワー注入しました。



2023年はどんな一年になるのか。
やはり、差がつく一年になると思います。
格差社会というよりは、同じ業界で差がつくのだと思います。
コロナ禍も4年目。
おそらく、医療界は差がつくど真ん中です。
社会を進めるために頑張っているの、うさぎのように跳ねたい気持ちはもちろんありますが、現実的にはなかなか社会を明るくする材料は少なく、閉塞感の漂う一年になるのではないのでしょうか。
閉塞感に押されてしまうところ、戦略的に抗い、打破しようとするところでは天と地ほどの差がつくと思います。
僕は自分の頭の中でつながらないことは100%やらないことにしています。
失敗上等を前提としたチャレンジはしません。
200%成功するように万全の準備を行い、取るべきでないリスクはないかをいつも考え必ずイケると確信して、そして覚悟を決めたことのみオールインします。創業経営者ですので、最終的な決断は当然にすべて自分でします。



今年は秋に2件目のクリニックが長岡駅前が始まります。
長岡市との初折衝からまるまる3年以上かけて、ようやく最終段階まで来ました。
全国的にも唯一無二の新しい医療機関になると思います。
ちなみに、おかげさまでエールホームクリニックの知名度がとんでもなく上がりましたので、名称は「エールホームクリニック長岡」にしました。
2023年、MBVはエールホームクリニック、エールホームクリニック長岡、エールワクチンセンターの3施設を運営します。
当然ですが大好きなシナジーが出て、渦を巻くと思います。

あらゆるものを吸収して、大きく巻き込みながら成長していきたいと思っています。
いよいよMBVの終わりになき旅が始まります。
本年も、皆さまからの熱いエールを宜しくお願いいたします。

頑張れ、はじめちゃん。

2023年2月

19

いつも、ありがとうございます。
1月21日大安に毎年恒例のMBV医師新年会を行いました。
弘前大学から、親友でMBV監事の中野創先生も参加してくれました。

スーパードクターが集結する 医療法人メディカルビットバレーの挑戦

長岡に

深刻な医師不足の本県で、信じられない現象が起きている。長岡市内で新しく開院したクリニックに、全国から続々と著名なドクターが集結しているという。同市内の再開発事業で整備される「米百俵プレイス(仮称)」に開院予定のクリニックでは、10人の医師が診療に当たる予定だ。一人の医師による既存の枠組みを突破したチャレンジが、奇跡ともいえる事態を呼び込んだ。

長岡のシンボル、「米百俵プレイス(仮称)」で開院へ

20年4月アオリ長岡で、要はありません

同市の磯田達伸市長や同年同月に設立された医療法人メディカルビットバレー(MBV)の理事長で、内科医の澁谷裕之氏が会見した。現在、同市では中心市街地の再開発事業が進行中。そこで整備される「米百俵プレイス(仮称)」に、この医療法人が「エール長岡クリニック」を開院する。場所は北越銀行の駐車場だった場所(街区)で、新たに建設される5階建て駐車場棟の1階部分(約2千㎡)。CTやMRIなどの医療機器や手術設備を備え、内科、小児科、皮膚科の医師が連携をとり、診療にあたるという。開院予定は22年春。

「特殊なものを除き、検査はすべてその日に診断がつくシステムです。たとえば血液検査なら60分以内に終わり、検査結果を聞きに再度来院する必要

「実際のほうはもう少し医師の数が多くならないかと思いますが、現時点では10人です」(同) 長岡市ではクリニックの開業が予定される「米百俵プレイス(仮称)」に、人づくりと産業振興を総がかりで支える地方創生の拠点として「人づくり学び交流エリア」を整備する。「米百俵プレイス(仮称)」は、「産業界のイノベーションを促進する4大学1高専の拠点」として「産業基盤の強化・新技術開発」の機能も期待されている。



医療法人メディカルビットバレーの理事長、澁谷裕之医師

ではクリニック事業のほか、

これらクリニックでの診療の

日本初の「シナジー診療」

「エールホームクリニック」な

「例えはアトピーの子れもが、極めて難しい。あえて言えば、かつてのイベントチャーターといったイメージだ。有名な「チームラボ」は01年にロゴラマー、チニア、数学者、建築家、絵師、ウラデザイナー、グラフィックデザイナー、CGアニメーター、編集者らによって東京都内で設立された。まさに各分野のプロフュージョンが集まり、当時は傍目は何をやっているのかわからないような企業だった。「エールホームクリニック」の在り方は「チームラボ」に近い。うが、こうした組織体制の話はひとまず後段に譲る。

長岡市下柳にある医療法人メディカルビットバレー(MBV)の「エールホームクリニック」は20年10月に開院。同クリニックは二人の医師により、内科、リウマチ科の2診療科でスタートした。21年4月からはそこに皮膚科、小児科、アレルギー科が追加され、医師がさらに4人加わって6人体制になる見込みだ。

22年春には市街地中心部の「米百俵プレイス(仮称)」に「エール長岡クリニック」を開業する予定。この段階で10人、あるいは10人プラスアルファの医師が二つのクリニックで診療に当たる予定だ。

患の自動診断を目指します」という。「エール長岡クリニック」の開業が、医療にとどまらず、地元産業界のイノベーションや新技術の創造に結びつくことが期待される。

「朝9時から夜9時までの12時間とする予定だ」という。「仕事を休んで受診しなくて済みます。例えばワクチン接種なども12時間のうちでどこでもできるようにします。学会などで糖尿病や高血圧なども早期に受診するよ」と言っていますが、現実には働いている人たちが受診できる時間

「医療は恋愛や青春と同じ」

医療法人メディカルビットバレー(MBV)では前出のクリニック事業やAI開発商品開発事業のほか、人材育成や女性医療従事者の登用支援などにも取り組むという。

「この医療法人はまったく血縁関係がなく、みんなが友だち関係なんです。そうした意味で、しっかりと次の世代に渡していかなければならないという大前提があります。そのためには様々な人材を育てていかなくてはなりませんし、医療ですから自分たちのところで医師も育てていかなければならないと考えています」

「理事長の澁谷裕之医師」 MBVのクリニックでは小児科や皮膚科といった診療科を開業している。「小児科や皮膚科は女性の医師が多いんです。今、女性の医師は全体の3分の1を超えるくらいまで増えています。新潟大学ではおよそ半分です。女性の医師が結婚、出産した場合、専門医を維持できなくなってしまう。医師の世界は男社会でもありますが、

がほとんどないわけですね。それを実際に実行できる体制にするのが、私たちの考えです」(同) こうした医師同士が連携した「シナジー診療」は、働く患者側にもメリットがあるという。澁谷裕之医師は長岡市の生涯学習センターで、元長岡赤十字病院総合診療科副部長だ。

「共感してしてくれる先生」とも、この「エールホームクリニック」で小児科、皮膚科、内科、そして子どもは24時間、365日の訪問診療をやっている。元知事の時代に魚沼基幹病院をスタートさせた。その結果はどうか。

スーパードクター集結

「もう受け入れられず面接を中止している状態です」(同) 深刻な医師不足の本県に、とつて信じられない現象が起きている。例えば県立病院の場合、元知事の時代に魚沼基幹病院をスタートさせた。その結果はどうか。

「ほとんどの医師は患者に喜ばれるところでやりたいんです。だから長岡でもどこでもいい。それをどのようになりたいか、それを決めるのは患者さんです。一人では難しい。私たちがやるべきは、長岡に移住することです」(同) MBVのクリニックでは医師や看護師、さらに医療事務も加わって、実にフラットな関係が築かれているという。長岡に集まる医師の家族も、基本的には長岡に移住する。

「医師は数じゃありません。性格がちゃんとした、やる気のある医師による少教精鋭にすべきなんです。私たちのような考えの医師はたくさんいるのですが、目立たないんです。そこには、奇跡がある。スーパードクターがここに集結するのは、奇跡だ」といっています。

周囲が自然と押し上げてくれるわけですね。それを目指しているんです。私のような存在が出てきたら、だから、やれるんだと共感を持って集まってくるんだと思います」(同) MBVのクリニックには、医師の世界にありがちな上意下達の関係がない。「医師の世界はどうしてもエラキーがありませんが、今の世代はフラットな関係と申しします。仲間同士で年齢の違いがあっても役割分担をしながらやっています」(同) 「エールホームクリニック」は、澁谷裕之医師が、今までの人生で最も大切な仕事だと思っています。



医師や看護師らがともに使用する休憩室

「医師は数じゃありません。性格がちゃんとした、やる気のある医師による少教精鋭にすべきなんです。私たちのような考えの医師はたくさんいるのですが、目立たないんです。そこには、奇跡がある。スーパードクターがここに集結するのは、奇跡だ」といっています。

医師6人、ワクチン接種半年で6万8千回

エールホームクリニックが拓く

(長岡市)

新しい医師と医療のスタイル

エールホームクリニックが誕生したのは昨年10月のこと。幸か不幸か、新型コロナウイルスの感染拡大と同時にスタートしたようなもの。同クリニックでは国難と言える緊急事態に、ワクチン接種を集中的に実施。何と6人の医師が半年で打った回数は7万回(11月19日段階)。そこから新しい医師、そして医療の在り方が見えてきた。

半年で7万回、救急搬送、アナフィラキシーなし

10月8日、長岡市にあるエールホームクリニックは開院1周年を迎えた。当初、2人の医師により、内科、リウマチ科の2診療科でスタート。今年4月から皮膚科、小児科、アレルギー科が追加され、医師が4人加わって6人体制になった。同クリニックが「コロナワクチン接種が7万回を超えました」と発表したのは11月19日のこと。

「当クリニックではこの7万回の接種すべてを医師が行い、これまで救急搬送やアナフィラキシーシヨックの発症事例はありません(エールホームクリニックのウェブサイトで)」。単独のクリニックがどれだけワクチン接種を実施したか、そうしたデータを取りまとめた資料は見当たらない。それゆえ正確なところは不明ながら、これほどの接種回数を誇るクリニックは、国内どころか世界にそうあるものではない。

エールホームクリニックを運営しているのが昨年4月に設立された医療法人メデイカルビッドパレーだ。理事長はクリニックのドクターでもある。想定外だったのがコロナ

10月8日、長岡市にある内科医の澁谷裕之氏。同氏は長岡市の生まれで弘前大学医学部出身。長岡赤十字病院の総合診療科で副部長を務めた。澁谷理事長はこう言う(6万8千回段階でのコメント)。「半年で6万8千回、すべて医師が打って、救急搬送もゼロ、アナフィラキシーもゼロです。その内容について内科学会で発表を予定しています。これは私たちがどれだけ丁寧な接種を進めているかを象徴する数字だと考えています」

澁谷理事長だけでなく「半年で1万6千回」、「当クリニックには1万回超えの医師が4人います(同)という。不謹慎な言い方かもしれないが、ほとんど「ギネスに挑戦」のようなクリニックだ。この半年間、医師6人がワクチン接種のみに専念したわけではない。通常の医療活動を行なうが、数字だ。

エールとは「応援」や「声援」といった意味。開業を東京オリンピックの頃に予定していたことから「ネーミングだ」という。想定外だったのがコロナ

「半年で6万8千回、すべて医師が打って、救急搬送もゼロ、アナフィラキシーもゼロです。その内容について内科学会で発表を予定しています。これは私たちがどれだけ丁寧な接種を進めているかを象徴する数字だと考えています」

禍だ。クリニックの開院と新型コロナウイルスの拡大が重なった。打ちも打つたり「半年で7万回」は、コロナでへた

1日、患者が二桁の時期も

エールホームクリニックは個人の開業医に比較して施設規模も相当大きい。駐車場も60台以上確保されている。それでも月曜は特に込み合うよう、駐車スペースが不足気味になるとい

「10月に開業し、年が明けて1月、2月でも1日の患者さんが4人、5人で、医師やスタッフの数が多という日もありました。患者はいない、お金

「10月に開業し、年が明けて1月、2月でも1日の患者さんが4人、5人で、医師やスタッフの数が多という日もありました。患者はいない、お金

「10月に開業し、年が明けて1月、2月でも1日の患者さんが4人、5人で、医師やスタッフの数が多という日もありました。患者はいない、お金

「10月に開業し、年が明けて1月、2月でも1日の患者さんが4人、5人で、医師やスタッフの数が多という日もありました。患者はいない、お金

「10月に開業し、年が明けて1月、2月でも1日の患者さんが4人、5人で、医師やスタッフの数が多という日もありました。患者はいない、お金



エールホームクリニックの6人のドクターたち

「10月に開業し、年が明けて1月、2月でも1日の患者さんが4人、5人で、医師やスタッフの数が多という日もありました。患者はいない、お金

医療と企業のマリアージュ

「10月に開業し、年が明けて1月、2月でも1日の患者さんが4人、5人で、医師やスタッフの数が多という日もありました。患者はいない、お金

「10月に開業し、年が明けて1月、2月でも1日の患者さんが4人、5人で、医師やスタッフの数が多という日もありました。患者はいない、お金

「10月に開業し、年が明けて1月、2月でも1日の患者さんが4人、5人で、医師やスタッフの数が多という日もありました。患者はいない、お金

「10月に開業し、年が明けて1月、2月でも1日の患者さんが4人、5人で、医師やスタッフの数が多という日もありました。患者はいない、お金

「10月に開業し、年が明けて1月、2月でも1日の患者さんが4人、5人で、医師やスタッフの数が多という日もありました。患者はいない、お金

「10月に開業し、年が明けて1月、2月でも1日の患者さんが4人、5人で、医師やスタッフの数が多という日もありました。患者はいない、お金



▲ワクチンを打つ澁谷裕之理事長

い。医療とはそういうものだと思うんです」(同)のなんだと、すごく実感しています。医療がよくなれば地域がよくなる。まさにそういうことなんだと思うんです」(同)

すべて自前

「これまで全部手作り、医療コンサルは一切入っていません。アウトソーシング(外部委託)も一切なしです。すべて自分たちのアイデアでやっています。多分、日本中でこれだけではないですか。土地探しから始めて、この(クリニックの)場所も自分で決めたんです」

(澁谷裕之理事長) 澁谷理事長にはやる自信があったという。「結局は人です。いい医者、いい看護師、いい検査技師、いい医療事務を集め、いい運営スタッフを集めれば、失敗しようがないんです。必ず分かってもらえる日が来るし、評価していただけたらと思います」

「すべて自前」というスタイルは職域接種も同じだった。「(職域接種も)全部自分たちで作ってあげてきたんです。例えば、

旅行会社が予約のノウハウを生かして、ワクチン接種の事務を受託していることもありすが、そうしたところから自分で自分たちでやっています。いわばマネジメント会社と医療が合体したようなもので、これが当クリニックの特徴でもあります。100%自前ですが、早い、中間に入るところがないから、(職域接種で)企業ともダイレクトで信頼関係を築くことができます。そして安い。中間に入るところがないわけですからね。これが特徴です。直接企業と話しますから、すぐ決まる。アウトソーシングも医療コンサルもゼロです」(同)

原点はアパと原信

「アパがまだ金沢でやっ」

「アパがまだ金沢でやっ」

「アパがまだ金沢でやっ」



各種の新型コロナワクチン

時に、家の近くにある個人商店で買い物するしかなかったです。原信ができたので、なにかいいところはないかと、世の中にこ

楽しかった、それがすべて

「火がつけばやりやす。医者だけではなく、医療従事者は、もともと全員の世の中のため、社会のためにいたいとか、困っている人たちのためにいたいという人たちがほとんどなんです。私たち職域接種の依頼が来ると、実は原信の産業医になるのが最初の目標だったんです。原信にお願いしたいんですが、本当にいい環境を整えてあげたいんです。私たちがワクチン接種の良さを知りたいんです。これが当クリニックの最大の特色です。人数は変わらないにしても、役割、活躍はものすごく幅広くなるし、みんな本来持っていた医療従事者の気持ちがよみがえるんです。そして医療の質は上がるし、皆さんから喜んでいただけたらいいです。医療は数でなく、質が重要です。医師は質が重要です。医師は質が重要です。医師は質が重要です。」



かつては「1日の患者が一桁だった」というエールホームクリニック

「医師って、もともと性格がいい人が多いので、いい環境を整えてあげれば、本人から喜んでもらえることをしてくれるんです。もともと勉強が好きだし、働くことが好きな人たちが集まってくる。」

「医師って、もともと性格がいい人が多いので、いい環境を整えてあげれば、本人から喜んでもらえることをしてくれるんです。もともと勉強が好きだし、働くことが好きな人たちが集まってくる。」

「医師って、もともと性格がいい人が多いので、いい環境を整えてあげれば、本人から喜んでもらえることをしてくれるんです。もともと勉強が好きだし、働くことが好きな人たちが集まってくる。」

「医師って、もともと性格がいい人が多いので、いい環境を整えてあげれば、本人から喜んでもらえることをしてくれるんです。もともと勉強が好きだし、働くことが好きな人たちが集まってくる。」



▲エールホームクリニックの待合室

んでもリクルートしな
ければという話をよ
く聞きます。そんな
時には人材派遣会社
から派遣してもら
うことが多いです」

（同）
医師がいない医療
機関など考えられな
い。医師の確保を人材
派遣に頼っているよ
うでは、医療機関の存在
そのものを他人に頼
っているようなものだ。

「医療機関は医師がエ
ンジンですから、医師
の確保を、元栓をひね
るようにコントロール
されてしまうというこ
とであり、それは一經
営者としていやだと、
ずっと思っていました」

（同）
やや横道に入るが、
エールホームクリニック
は開設当初から順風



▲新型コロナワクチンを打つ澁谷裕之理事長

んが4人、5人で、医師
やスタッフの数が多
いという日もありま
した。患者はいない、お金
はない、当時は信用も
なかったわけですが
、何もないどころか、
マイナスから始めたよ
うなものです」

今は60台以上確保
されている駐車場が
満杯になり、さらに駐
車場の警備員を常時
配置せざるを得ない
ような状況になった。
それはクリニックの開
設とほぼ同時期に国
内を襲ったコロナ禍
の中で、コロナ対応に徹
底して注力したこと
が評価された結果で
もある。

澁谷理事長は過去
にこう語っていた。
「(昨年)10月に開業
し、年が明けて1月、
2月でも1日の患者さ
もあつた。冒頭、長岡市の磯田
達伸市長がエールホー



▲エールワクチンセンターのセンター長、田村真麻医師(左)と鈴木竜太郎医師(右)

ムクリニックでのワクチ
ン接種回数を14万回
超と紹介していた。こ
れでも民間のクリニッ
クとしてギネスものと
言われるほど。9月21
日現在では15万回超
となった。これらはす
べて医師が打った数
で、内科医である澁谷
理事長の接種回数は
3万回を超えている。

医師が全力でコロナ
対応に当たったことの
ほか、澁谷理事長が強
調する医師同士によ
る「シナジー(相乗)効
果」が評価されたこと
でもある。「シナジー
(相乗)効果」とは、例
えば皮膚科や小児科
など、それぞれの専門
医である医師が、チ
ームで患者を診るスタ
イルによつて得られる効
果のこと。

「シナジー診療」につ
いて、まだ開業する
前、澁谷理事長はこう
語っていた。「例えばア
トピーの子どもがいた
とします。最初は小
児科で診ることに
なるとは思いますが、
皮膚科で診ます。
皮膚の病気が内臓の
疾患からくることも
ありますから、そうし
た場合は、その場で別
の専門医の先生が
一緒に診る。」

小児科にかかるの
は風邪などの感染症
が多いわけですが、親
も具合が悪いことが
多いですから、内科の
医師と一緒に診ること
もできる。いくつもの
医療機関を受診せず
とも「か所で診ること
ができる。しかも医師
同士が互いに仲がいい
のでスムーズにいく。こ
れをを勝手な造語で
すが、シナジー(相乗
効果)診療などと
言っています」

「シナジー(相乗)効
果」は医師だけのもの
ではない。
エールホームクリニック
では新型コロナウイルスのワ
クチン接種について、すべ
て自前のスタッフで実
施した。予約のノウハウ
を生かし、旅行会社
が医療機関でワクチン
接種の事務を委託し
ていることもある。

エールホームクリニッ
クでは、こうした事務
的な部門を含め、「から
立ち上げた。アウト
ソーシングも医療コン
サルもゼロで実施する
ことで、経費を抑え込
むこともできる。ドク
ターや看護師、ある
いは医療事務などのス
タッフがタッグを組ん
で、すべてを自前でこ
すことで、「シナジー効
果」が生まれるという。

2年間のこうした努
力がエールホームクリ
ニックに対する信頼感
を醸成し、「まずはエ
ルへの理念につながっ
たようだ。ただ、これ
だけだと足りない。ち
ょうと、澁谷裕之理事
長」

食糧や半導体の原
料を大国に握られて
いるようでは、大国の
軍門に下らざるを得
ない。やはり食糧や資
源は独自で確保しな
ければならない。メ
ディカルビットパレ
ー(MBV)による医師
確保は、いわば食料安
保のようなものだ。
「いい医師を集めるこ
とができれば、ほかの
医療機関だって注目
することになると思
います。そして自分
たちもそのように医
師を確保していか
ないと差が出てしま
うと思うんです。
「医師免許を取っ
てしまつた、ある意
味ではみんな平等な
感じがあつたので
すが、医師は受験勉
強とか一生懸命にや
つてきたから、も
とから、もともと
な事情による短時間

企業理念で 医師をリクルート

話を医師のリク
ルートにもどしたい。
医療機関にとって医
師確保はまさに死活
問題だ。例えばこれ
を人材派遣会社に委
ねているとすれば、生
殺与奪の権を他者に
預けているようなも
のだ。
「(いわば)エールスタ
イル」が開業を予定し
ている。

「(いわば)エールスタ
イル」が開業を予定し
ている。
そうすることによ
つて、働く人も職場
も



▲「米百俵プレイス北館」の進出協定締結式(左から3人目が医療法人メディカルビットパレールの澁谷理事長)

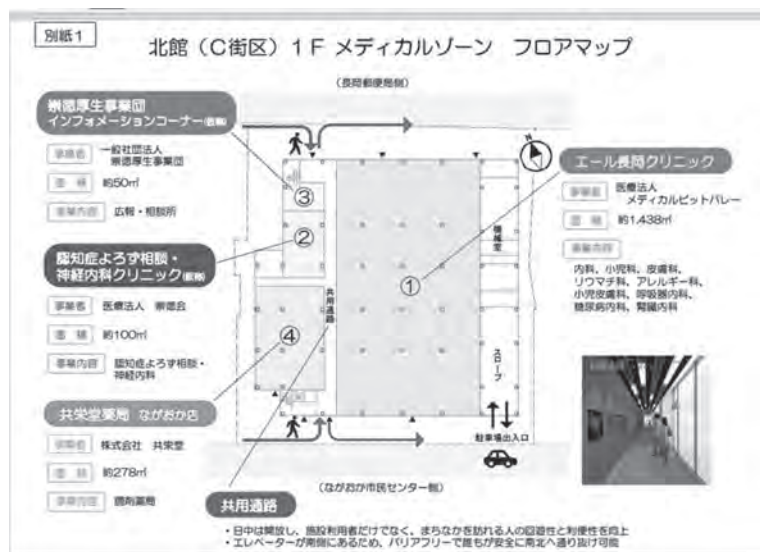
常勤も大歓迎だとい
う。「大歓迎」といった
文言が入る医師の募
集要項など、ちょっと
見たことがない。
「短時間常勤にもこ
だわっています。女性
の医師はとつても増
えています。医師の
世界がやはり未だ男
社会ということもあ
り、育児や何やらで
キャリアを失う人も
多いと思います。

「専門のスペシャリス
トであることはすこ
う。」「まずは受け入れら
れることをチーム全
員でやるべきことでは
ないか」と思っています。
（同）

「何でもやれます」と
いうことではないとい
う。出身の稲垣啓太選手
のようないかに新
しい医療のスタイルを
提案するものか、次
号以降で詳述したい。



▲「米百俵プレイス」の建物配置図(長岡市の報道発表資料より)



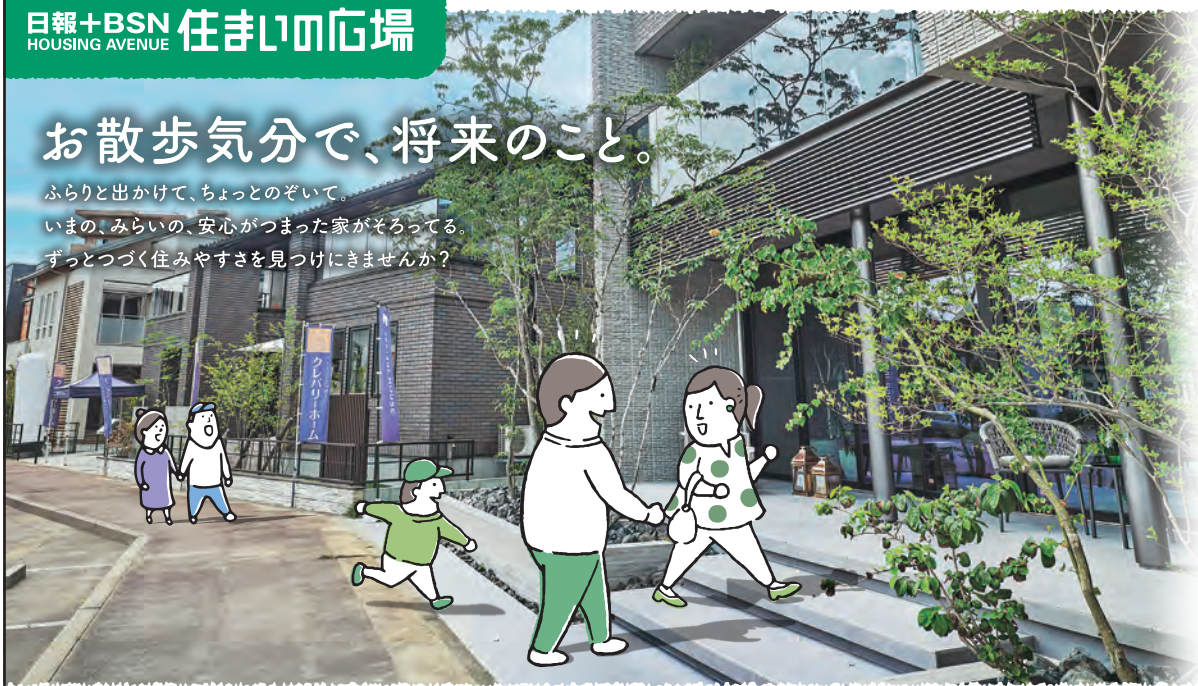
▲「米百俵プレイス北館」1階テナントの配置図(長岡市の報道発表資料より)

2022年10月号「財界にいがた」掲載

日報+BSN 住まいの広場 HOUSING AVENUE

お散歩気分、将来のこと。

ふらりと出かけて、ちょっとのぞいて。
いま、みらいの、安心がつまった家がそらってる。
ずっとつづく住みやすさを見つけにきませんか？



無記名で
月イチ開催
のびのび
フリー貝学Day!

モデルハウスでのアンケートの記名は必要ナシ！
お好きなタイミングで気になるモデルハウスを何棟でもご見学ください！
●開催時間 10:30~16:30(最終受付16:00)
※はじめにセンターハウスへお越しください。

当日参加OK!

毎日開催
住宅資金と
ライフプラン相談会

【時間】①10:30~11:30 ②13:30~14:30
【相談員】ファイナンシャルプランナー
これからの家づくりを始める方に！まずは無理のない資金計画を立てましょう。
※希望日時(第3希望まで)などを5日前までにWEBサイトよりお申し込みください。

個別相談
完全予約制
参加無料
詳しくはWEBへ!

詳しい開催日は住まいの広場
WEBサイトイベントページより
ご確認ください

12社13棟のモデルハウス+エクステリア館!

株式会社イシカワ 住友林業株式会社 三井ホーム 日本ハウスHD セキスイハイム LEO HOUSE
一条工務店 SEKISUI HOUSE 積水ハウス クレバリーホーム HINOKIYA アイ工務店 MISAWA ミサワホーム EXTERIOR工房 庭舎館

モデルハウスのスタッフが質問疑問に丁寧に回答！個別見学予約がオススメです！
WEBからの個別見学予約でご来場の方に！オリジナルQUOカード500円分をプレゼント！※初めてのご予約・ご来場時に1棟につき1枚(500円分)さしあげます。

住まいの広場 日報+BSN HOUSING AVENUE

長岡会場 TEL 0258-89-8482 〒940-2108 長岡市千秋1丁目103-1

●常設・入場無料(年中無休)
●開場時間/午前10時~午後6時
※一部休みのモデルハウスもあります。

イベントに関するお問い合わせ
日報+BSN 住まいの広場 イベント事務局
TEL:025-290-7350
受付時間:土日祝日を除く平日10:00~18:00



新型コロナウイルス蔓延に伴う
皆さまへのお願い

感染症拡大防止の観点から、政府及び自治体の方針に基づき下記事項についてご協力ください。

- ご来場の際には手洗い・消毒にご協力ください。
- 場内スタッフはマスク着用にてご案内させていただきます。
- 発熱や体調不良の症状がある場合には来場をご遠慮ください。
- クラスター対策のため名簿の記入をお願いする場合がございます。

感染拡大の情勢の変化に応じて、イベントを中止・変更する場合がございます。